

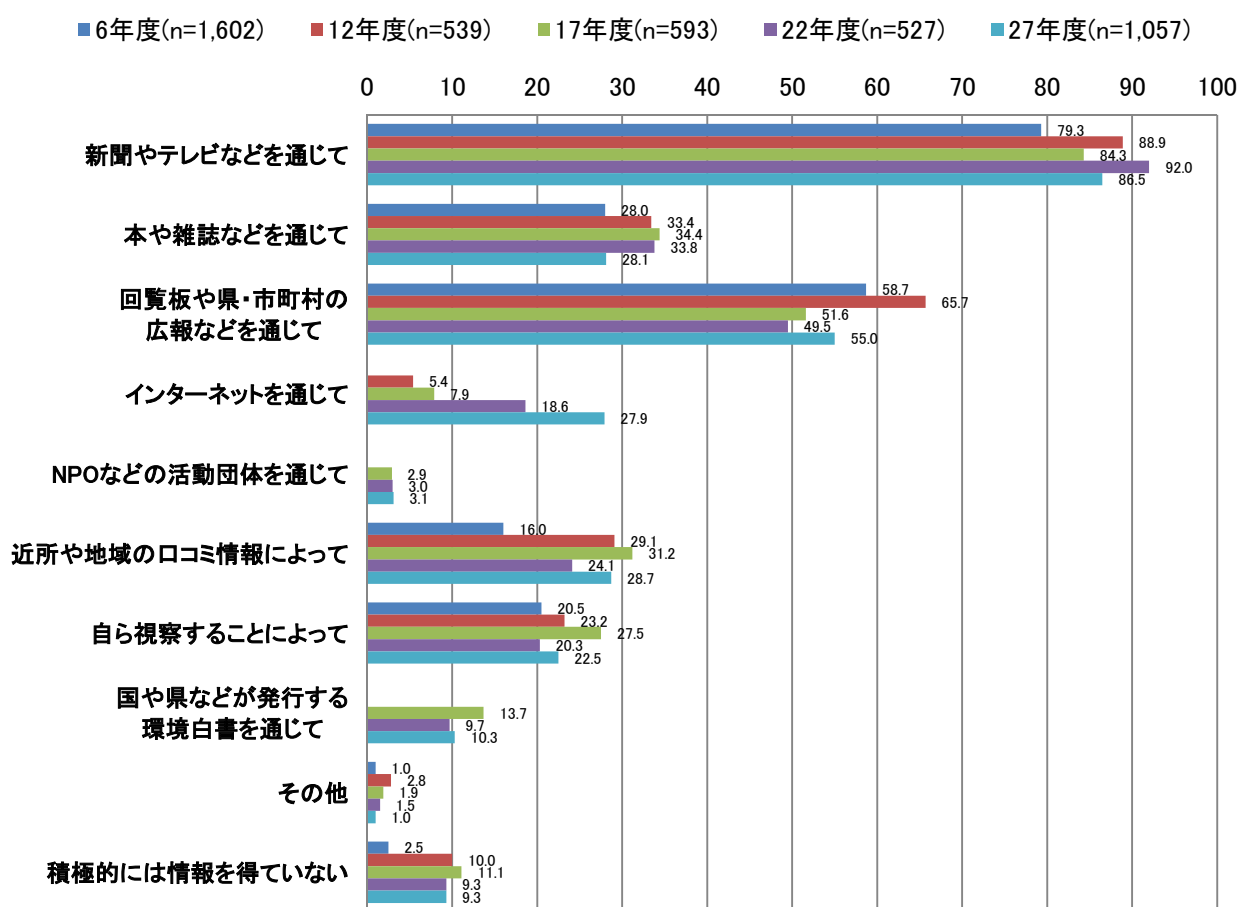
### 3. 4 環境問題に関する情報源

#### 3. 4. 1 環境問題に関する情報源

問5 あなたは、どのようにして、自然環境や身近な生活環境についての情報を得ていますか。  
 あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

#### (1) 経年推移

「インターネット」は10年度から、「NPOなどの活動団体」は14年度から、「環境白書」は21年度からの項目



<グラフ77 環境問題に関する情報源 経年推移>

#### 1 番の情報源は「新聞やテレビ」

重要な情報源としては「新聞やテレビ (86.5%)」が最も高く、この傾向は過去の調査結果と一致している。

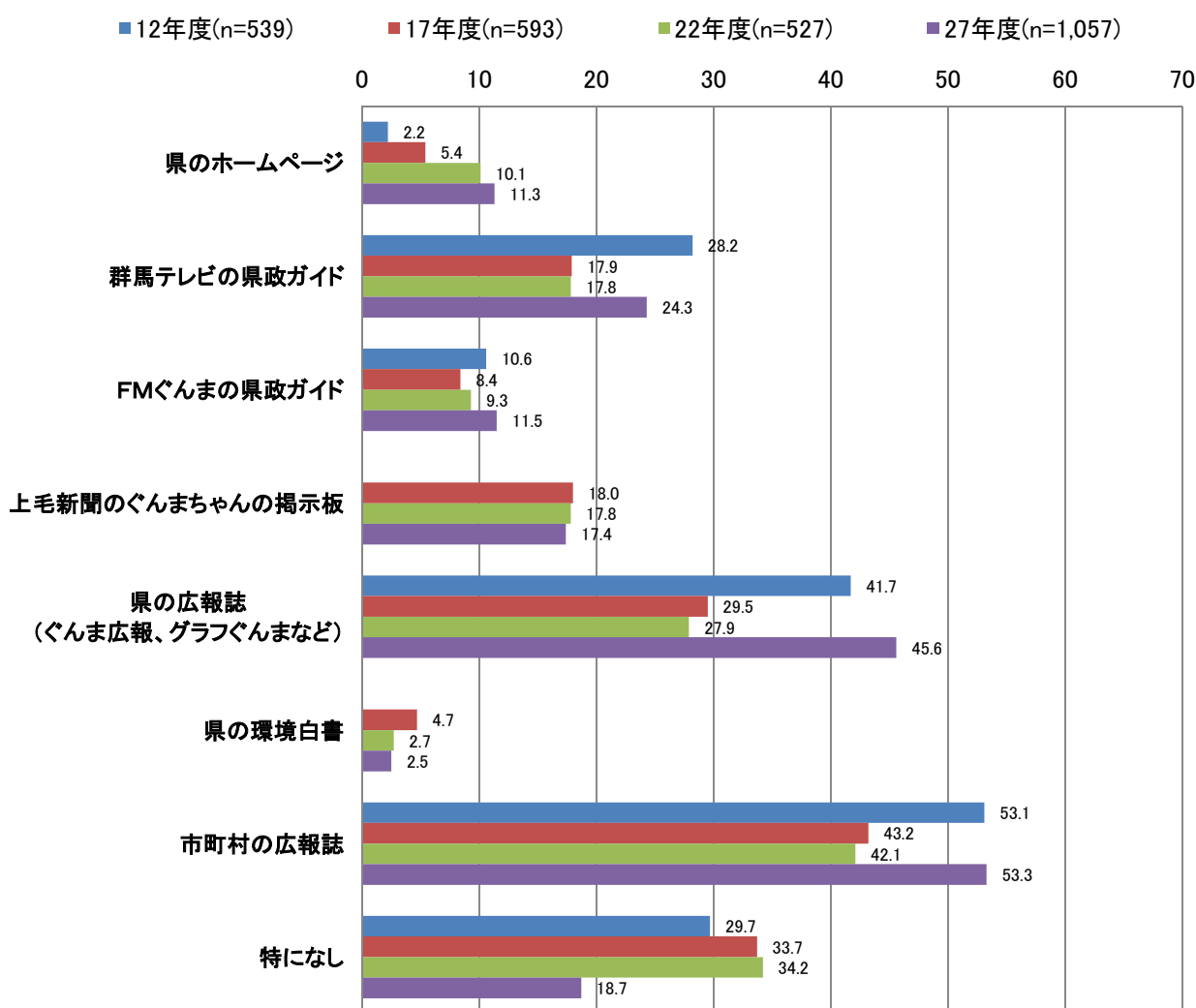
また、「回覧板や県・市町村の広報 (55.0%)」も重要な情報源となっていると共に、「インターネット (27.9%)」の割合も年々、増加している。

### 3.4.2 群馬県の発信する環境情報をどこから得ているか

問6 群馬県の発信する環境情報について、お聞きします。  
 あなたは、県の環境に関する情報をどこから得たことがありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

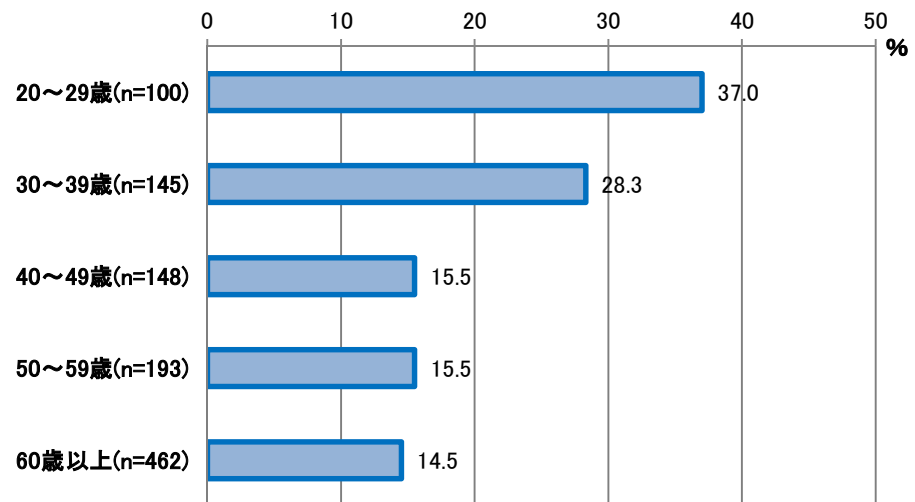
#### (1) 経年推移

「ぐんまちゃんの掲示板」は14年度から、「県の環境白書」は21年度からの項目



<グラフ78 県の環境に関する情報源 経年推移>

## (2)年代別傾向



<グラフ79 特になし 年代別>

### 1 番の情報源は「市町村の広報誌」

県の環境に関する情報源は、「市町村の広報誌（53.3%）」が最も高く、この傾向は過去の調査結果と一致している。

また、「県の広報誌（45.6%）」、「群馬テレビの県政ガイド（24.3%）」も、前回調査から大幅に増加している。

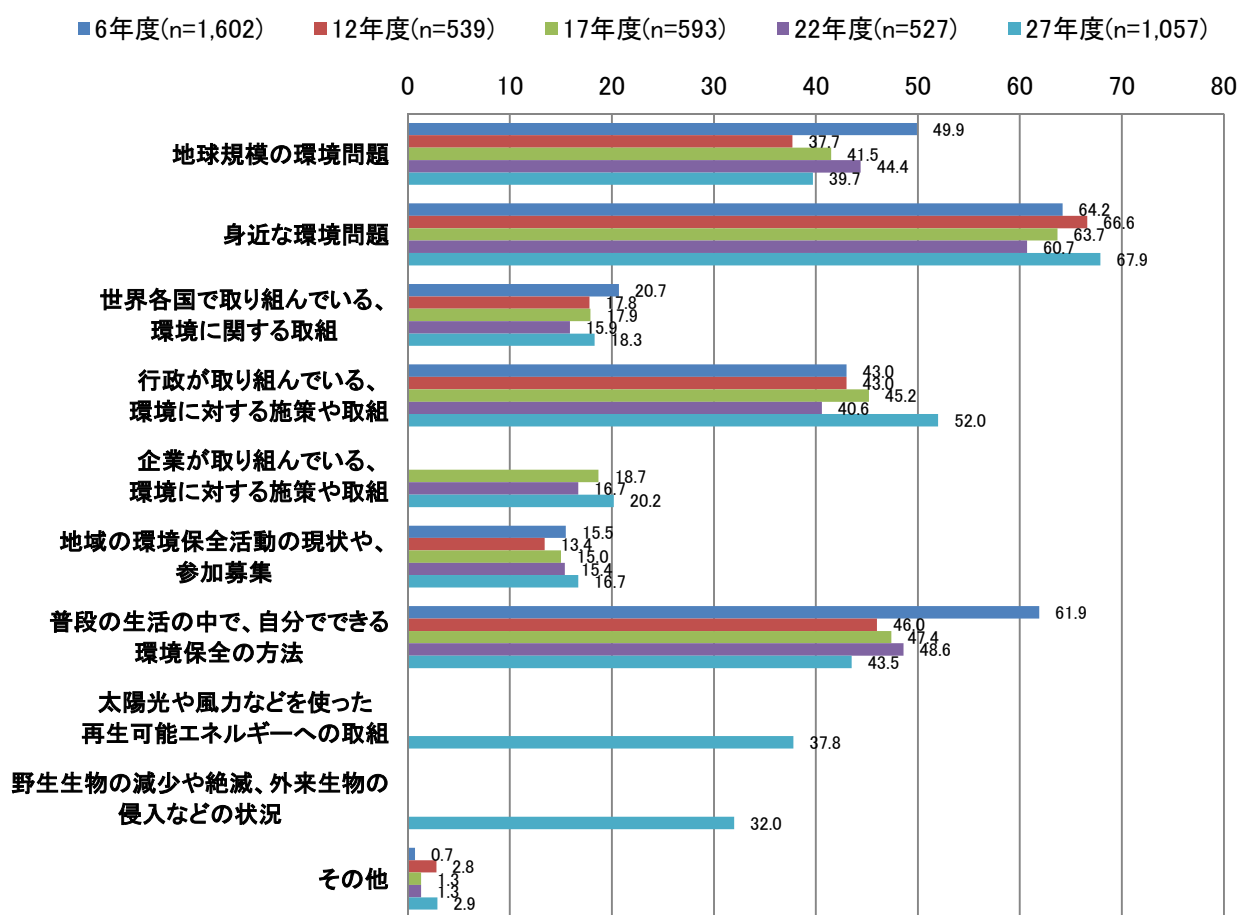
一方、「特になし（18.7%）」と回答した年代別傾向をみると、「20代（37.0%）」、「30代（28.3%）」が、県の環境に関する情報を特に得ていなかった。

### 3.4.3 今後、環境に関するどのような情報を知りたいか

問7 あなたは、今後、環境に関するどのような情報を知りたいですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

#### (1) 経年推移

「企業に取り組んでいる、環境に対する施策や取組」は17年度から、「太陽光や風力などを使った再生可能エネルギーへの取組について」「野生生物の減少や絶滅、外来生物の侵入などの状況について」は今年度からの項目



<グラフ80 今後、環境に関するどのような情報を知りたいか 経年推移>

#### 最も知りたい情報は「身近な環境問題」

最も知りたい情報は「身近な環境問題（67.9%）」、2番目が「行政が取り組んでいる、環境に対する施策や取組（52.0%）」、3番目が「普段の生活の中で、自分でできる環境保全の方法（43.5%）」であった。

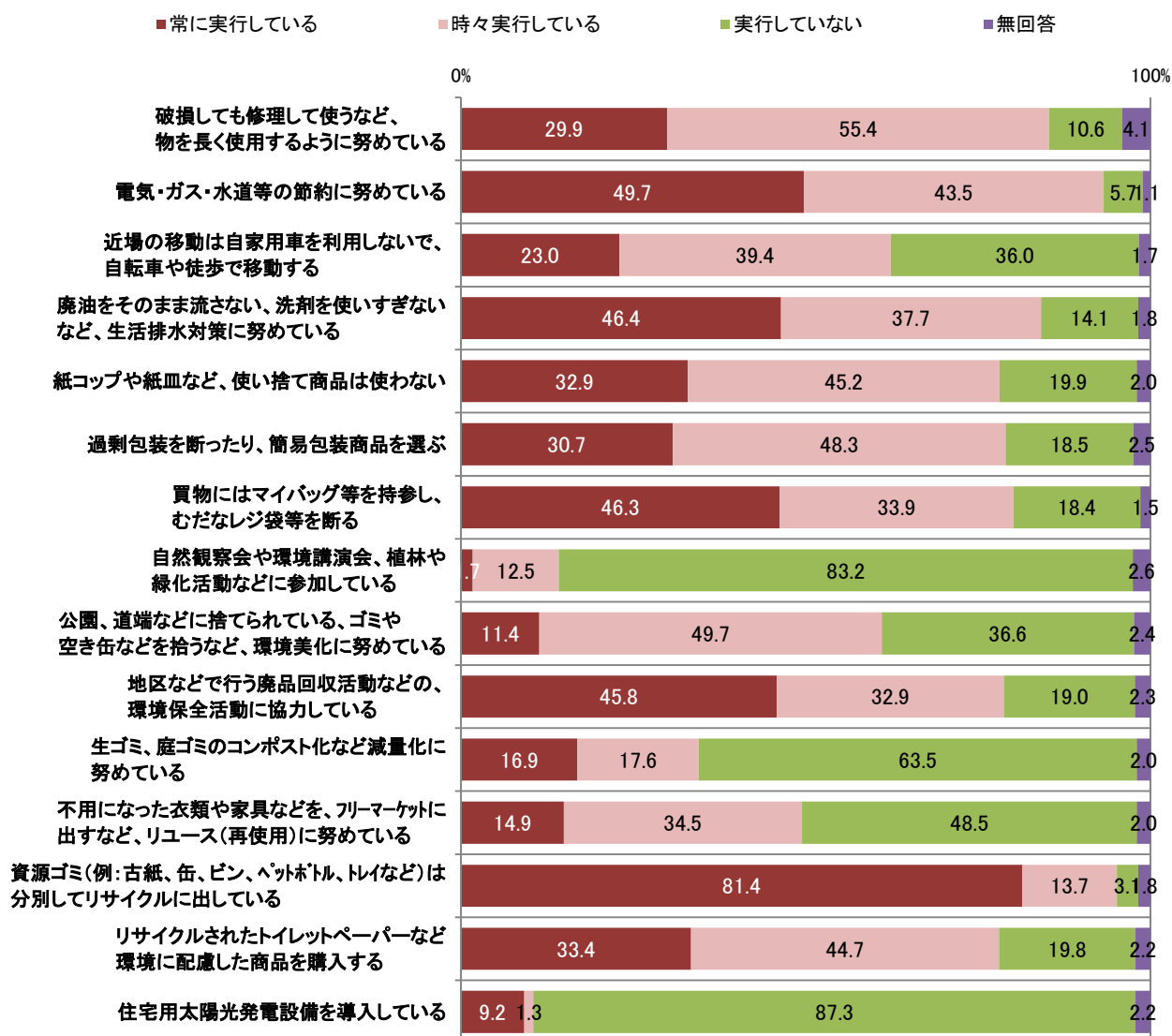
### 3.5 取組

#### 3.5.1 環境保全のための現在の取組状況と今後の取組意向

問8 あなたは、環境保全のために、現在どのようなことを心がけていますか。また、今後どのような取組を行っていきたいですか。以下のそれぞれの項目について、「A. 現在」「B. 今後」から、あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。(○はA, Bそれぞれ1つずつ)

#### (1) 今年度の傾向

##### 〈現在〉



〈グラフ81 環境保全に対する取組 現在〉

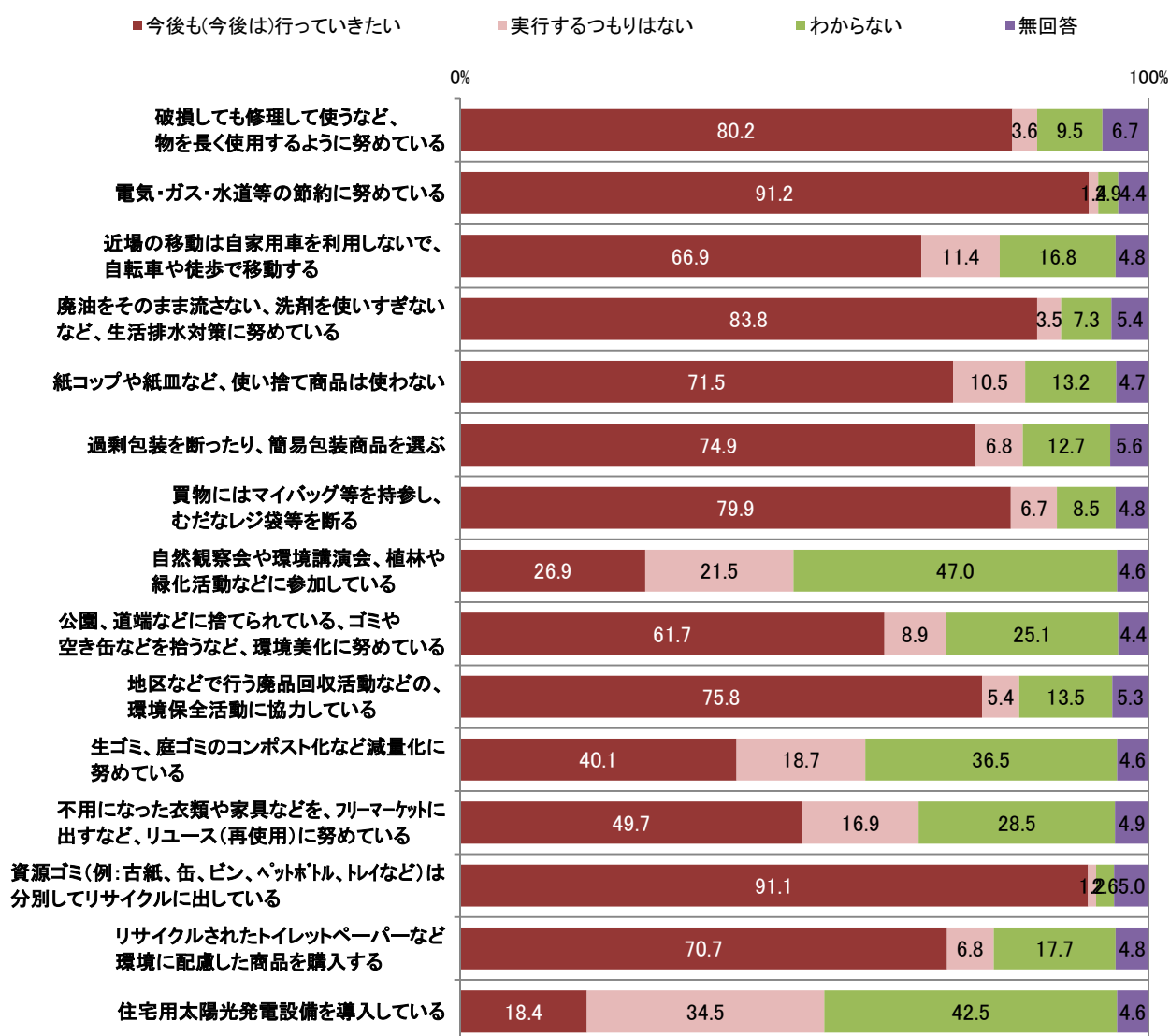
### 1 番実行されている取組は「資源ゴミの分別」

実行されている取組として「資源ゴミ（例：古紙、缶、ビン、ペットボトル、トレイなど）は分別してリサイクルに出している（95.1%）」、「電気・ガス・水道等の節約に努めている（93.2%）」、「破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている（85.3%）」、「廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている（84.1%）」、「買物にはマイバッグ等を持参し、むだなレジ袋等を断る（80.2%）」の合わせて5項目については、8割以上の実行率であった。

一方、「住宅用太陽光発電設備を導入している（10.5%）」、「自然観察会や環境講演会、植林や緑化活動などに参加している（14.2%）」、「生ゴミ、庭ゴミのコンポスト化など減量化に努めている（34.5%）」の合わせて3項目については、4割未満の実行率であった。

※ 上記文章中の「実行している」は、「常に実行している」と「時々実行している」の割合を合算して算出。

## 《今後》



＜グラフ82 環境保全に対する取組 今後＞

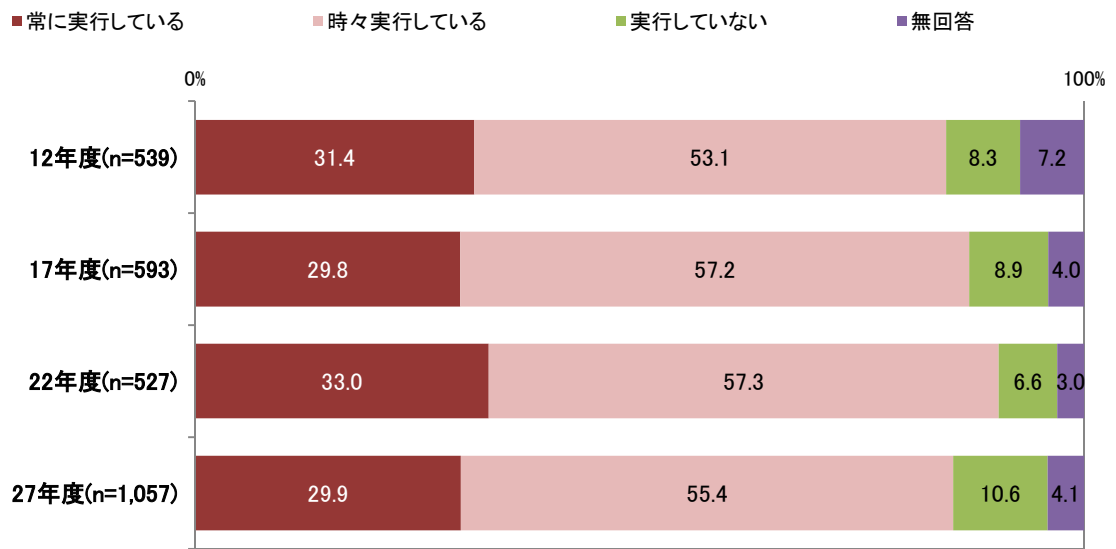
県民の環境保全に対する取組意識は高い

「電気・ガス・水道等の節約に努めている(91.2%)」、「資源ゴミ(例:古紙、缶、ビン、ペットボトル、トレイなど)は分別してリサイクルに出している(91.1%)」、「廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている(83.8%)」、「破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている(80.2%)」の合わせて4項目について、8割以上の人が今後も(今後は)行っていきたいと回答している。

(2) 経年推移

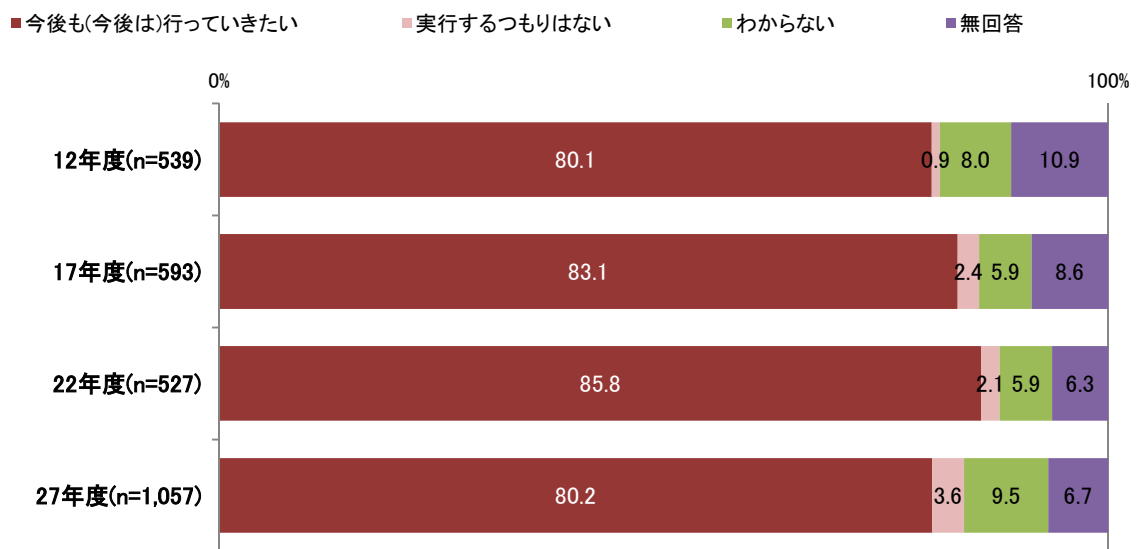
【破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている】

《現在》



＜グラフ83 破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている  
現在 経年推移＞

《今後》

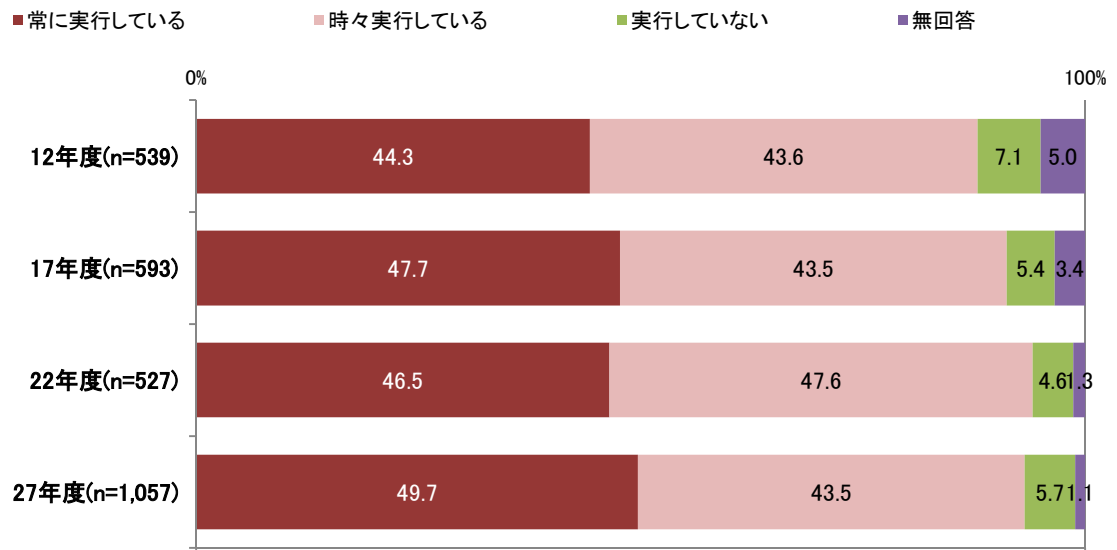


＜グラフ84 破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている  
今後 経年推移＞



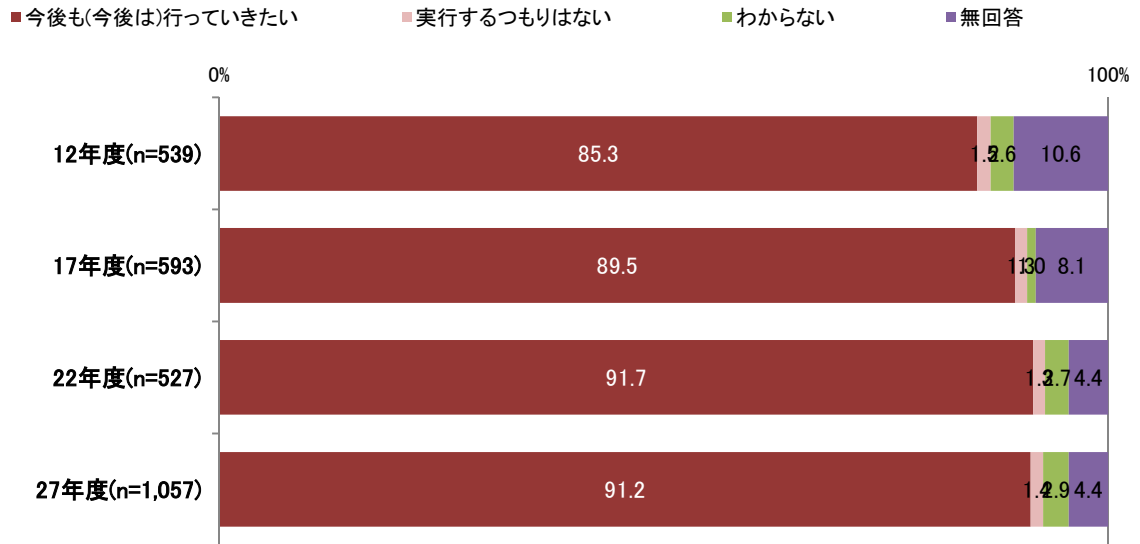
【電気・ガス・水道等の節約に努めている】

《現在》



＜グラフ85 電気・ガス・水道等の節約に努めている 現在 経年推移＞

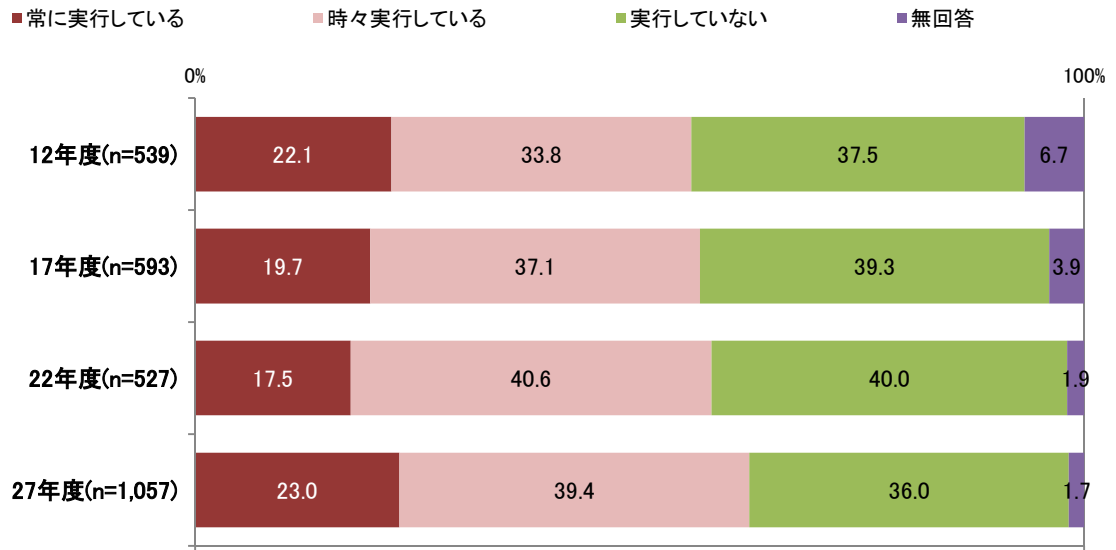
《今後》



＜グラフ86 電気・ガス・水道等の節約に努めている 今後 経年推移＞

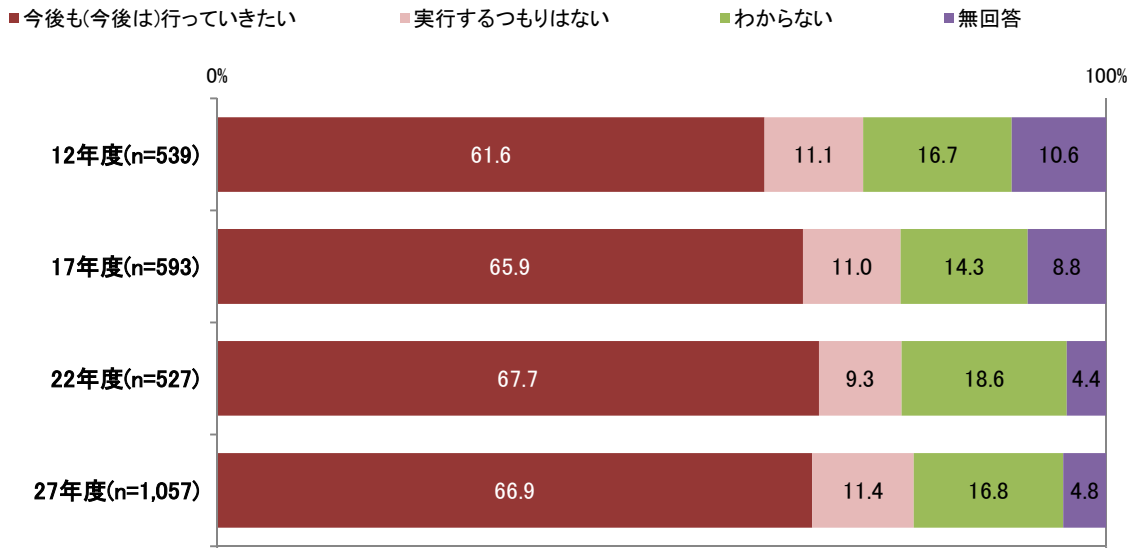
【近場の移動は自家用車を利用しないで、自転車や徒歩で移動する】

《現在》



＜グラフ87 近場の移動は自家用車を利用しないで、自転車や徒歩で移動する 現在 経年推移＞

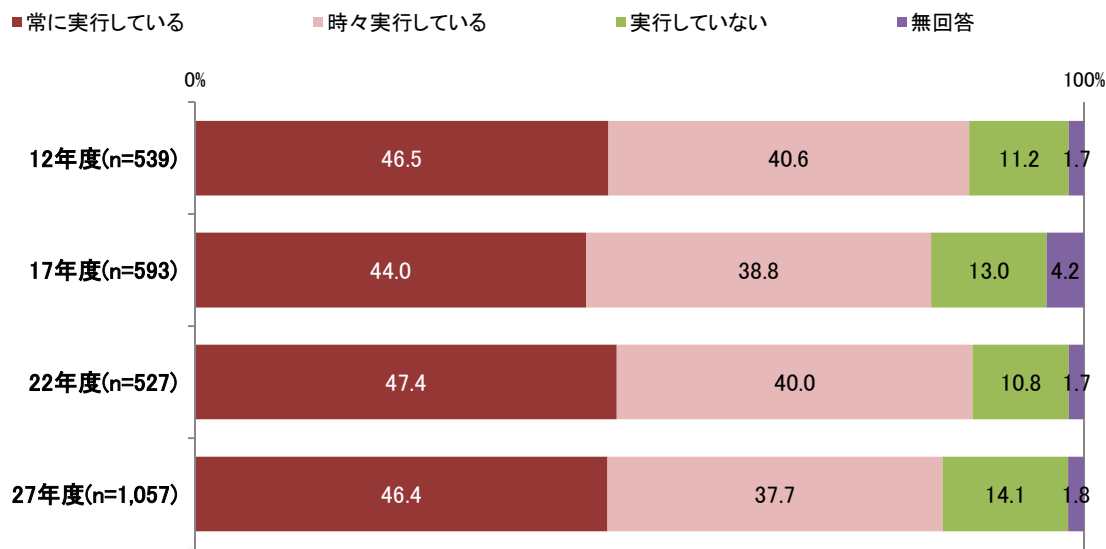
《今後》



＜グラフ88 近場の移動は自家用車を利用しないで、自転車や徒歩で移動する 今後 経年推移＞

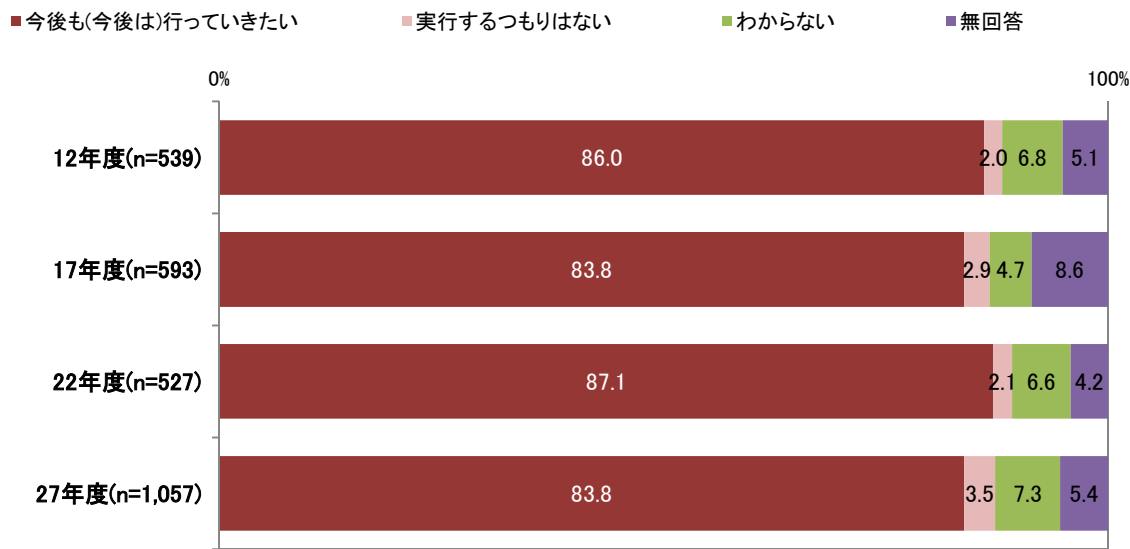
【廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている】

《現在》



＜グラフ89 廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている 現在 経年推移＞

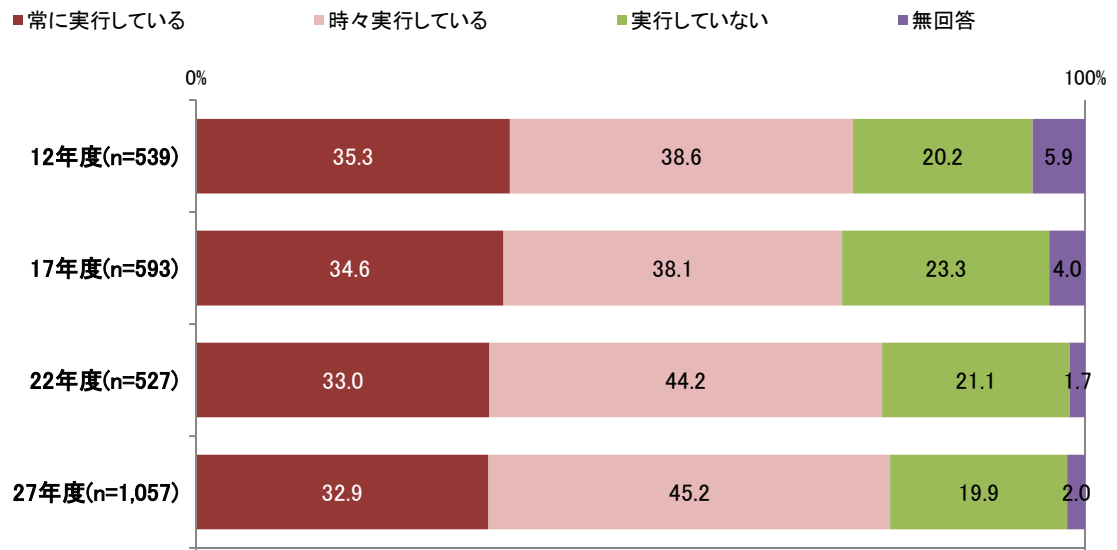
《今後》



＜グラフ90 廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている 今後 経年推移＞

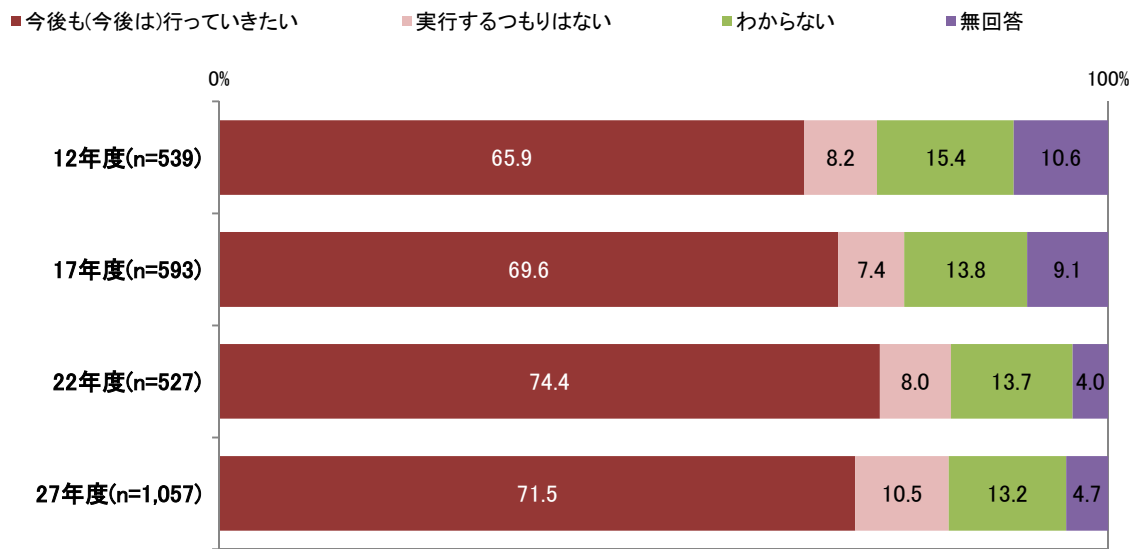
【紙コップや紙皿など、使い捨て商品は使わない】

《現在》



＜グラフ91 紙コップや紙皿など、使い捨て商品は使わない 現在 経年推移＞

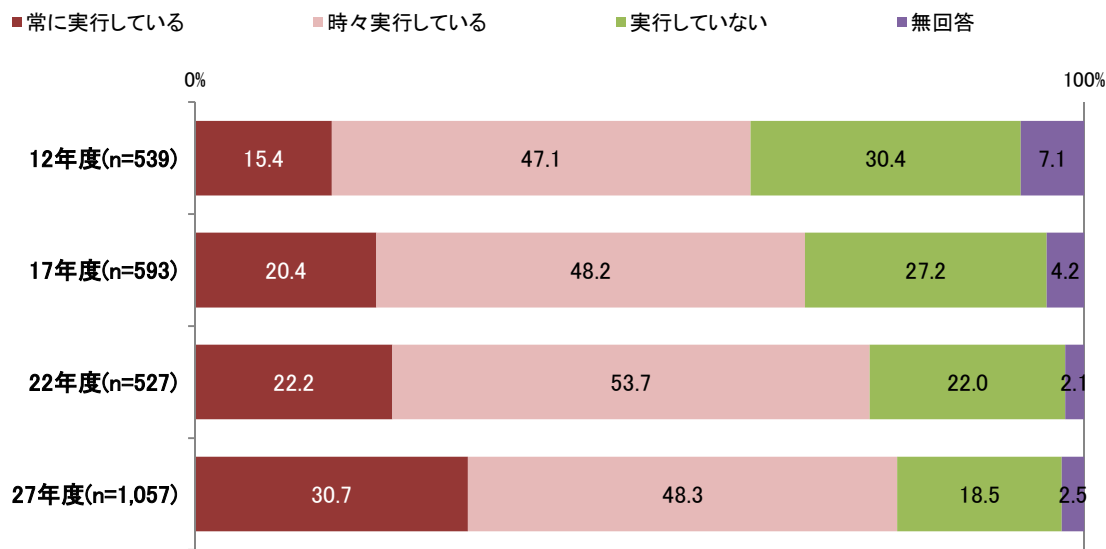
《今後》



＜グラフ92 紙コップや紙皿など、使い捨て商品は使わない 今後 経年推移＞

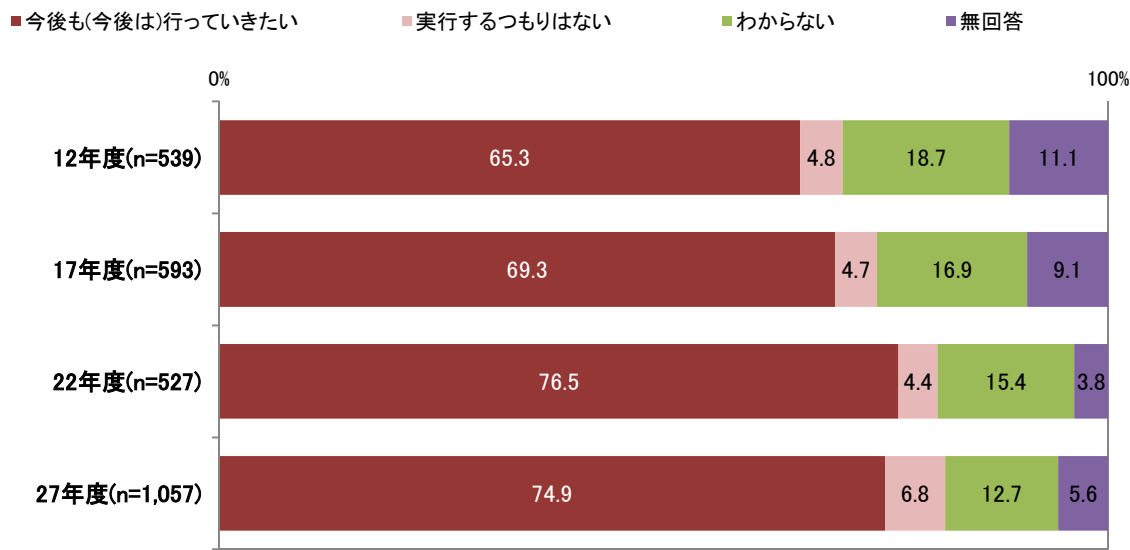
【過剰包装を断ったり、簡易包装商品を選ぶ】

《現在》



＜グラフ93 過剰包装を断ったり、簡易包装商品を選ぶ 現在 経年推移＞

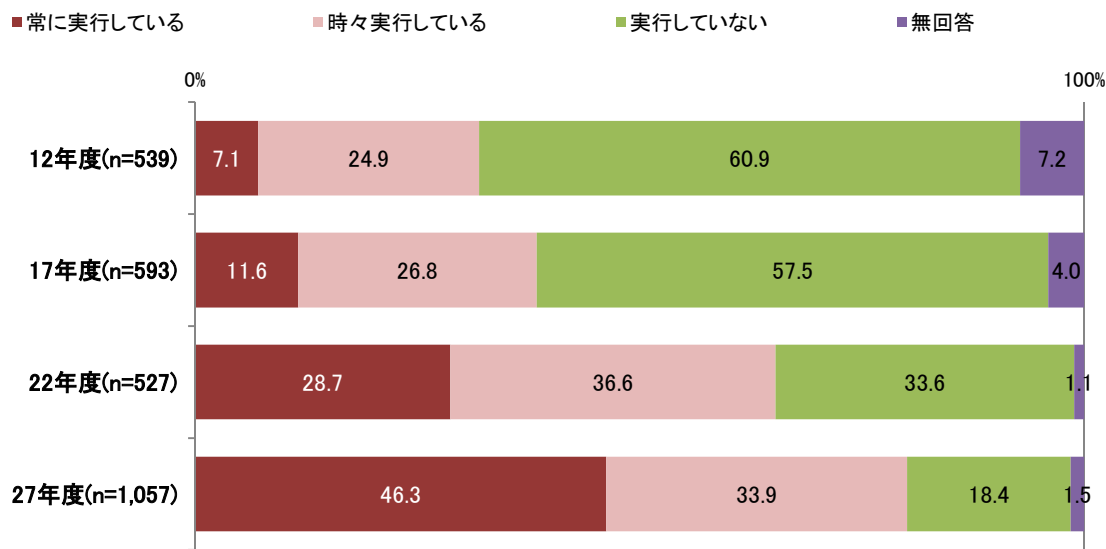
《今後》



＜グラフ94 過剰包装を断ったり、簡易包装商品を選ぶ 今後 経年推移＞

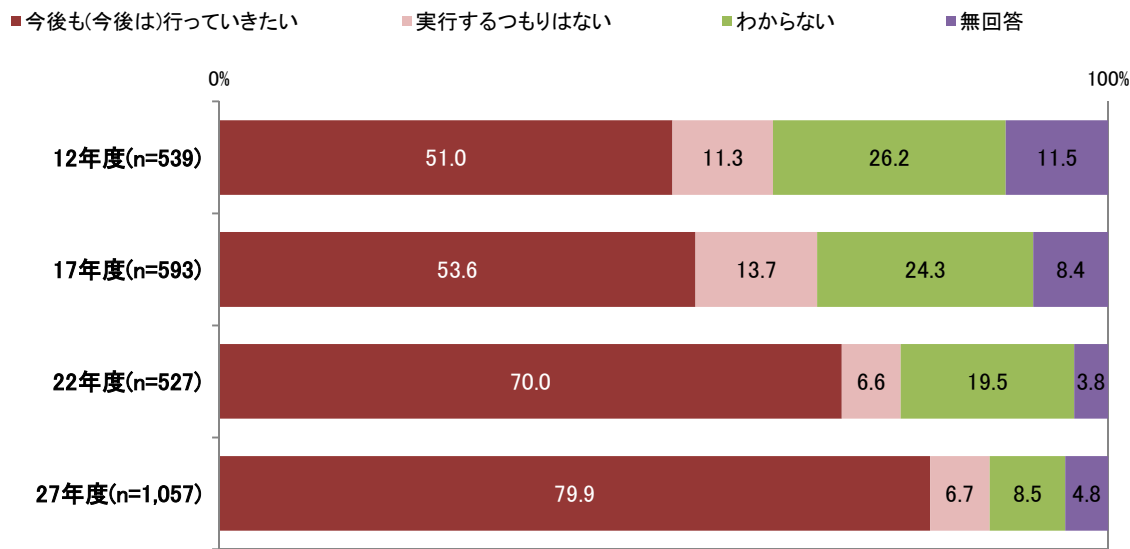
【買物にはマイバッグ等を持参し、むだなレジ袋等を断る】

《現在》



＜グラフ95 買物にはマイバッグ等を持参し、むだなレジ袋等を断る 現在 経年推移＞

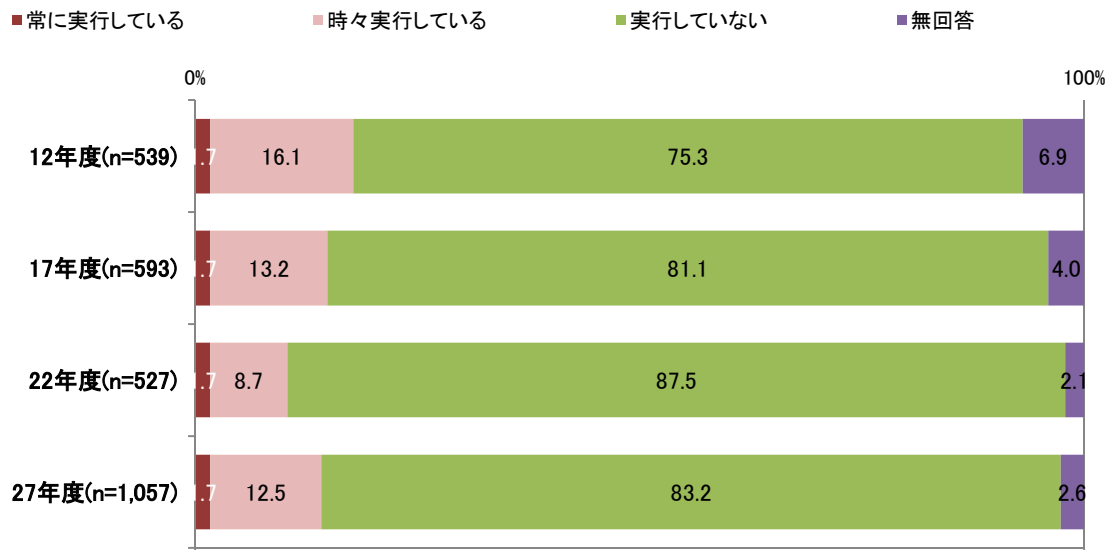
《今後》



＜グラフ96 買物にはマイバッグ等を持参し、むだなレジ袋等を断る 今後 経年推移＞

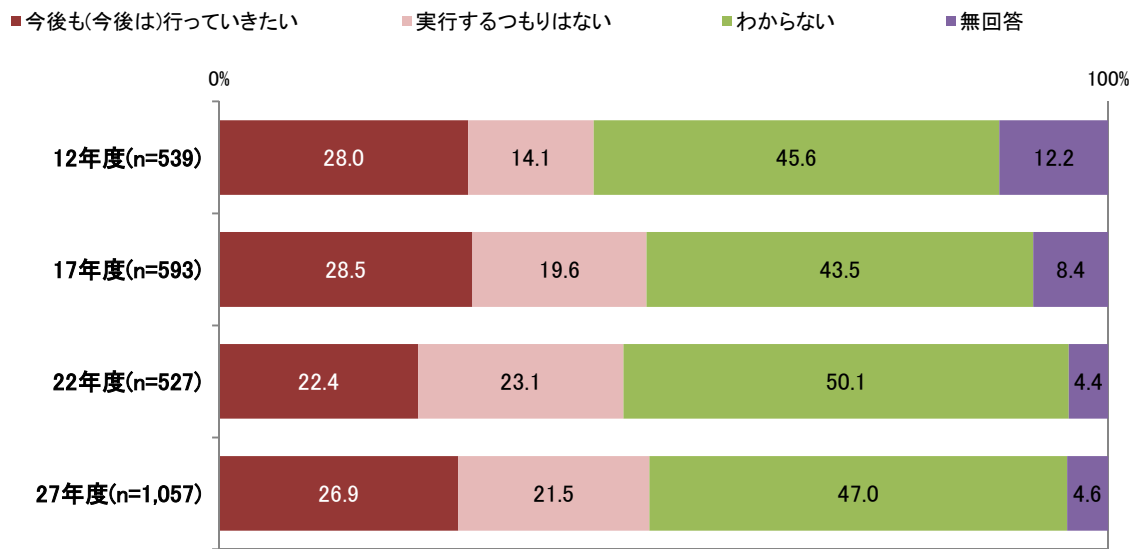
【自然観察会や環境講演会、植林や緑化活動などに参加している】

《現在》



＜グラフ97 自然観察会や環境講演会、植林や緑化活動などに参加している  
現在 経年推移＞

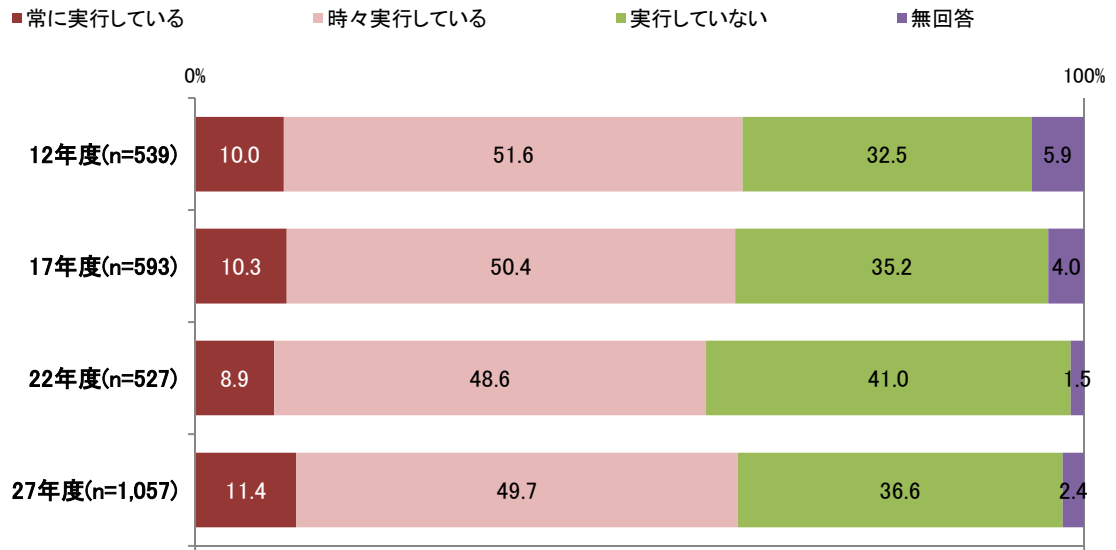
《今後》



＜グラフ98 自然観察会や環境講演会、植林や緑化活動などに参加している  
今後 経年推移＞

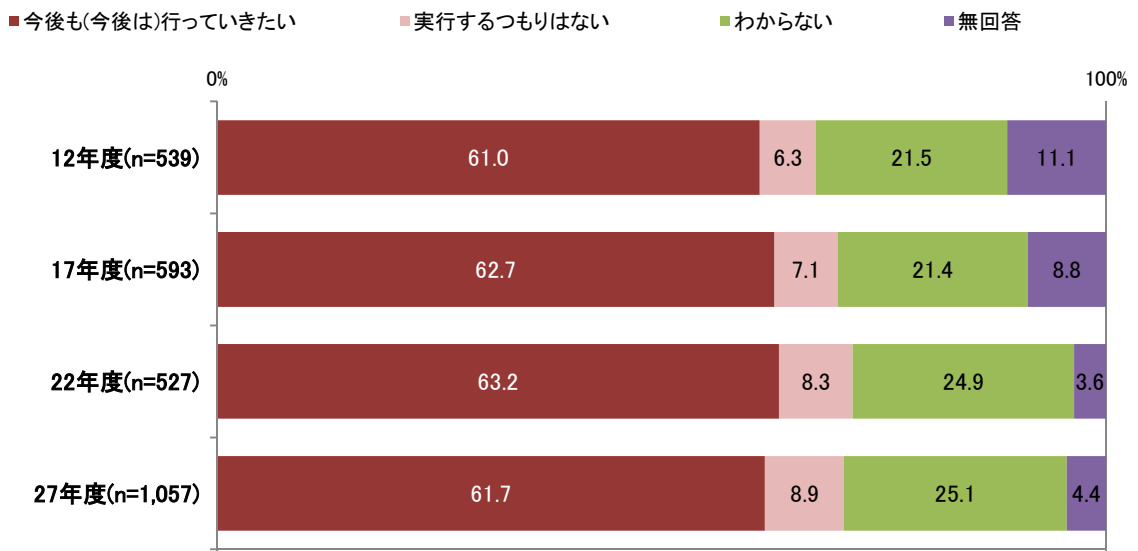
【公園、道端などに捨てられている、ゴミや空き缶などを拾うなど、環境美化に努めている】

《現在》



＜グラフ99 公園、道端などに捨てられている、ゴミや空き缶などを拾うなど、環境美化に努めている 現在 経年推移＞

《今後》

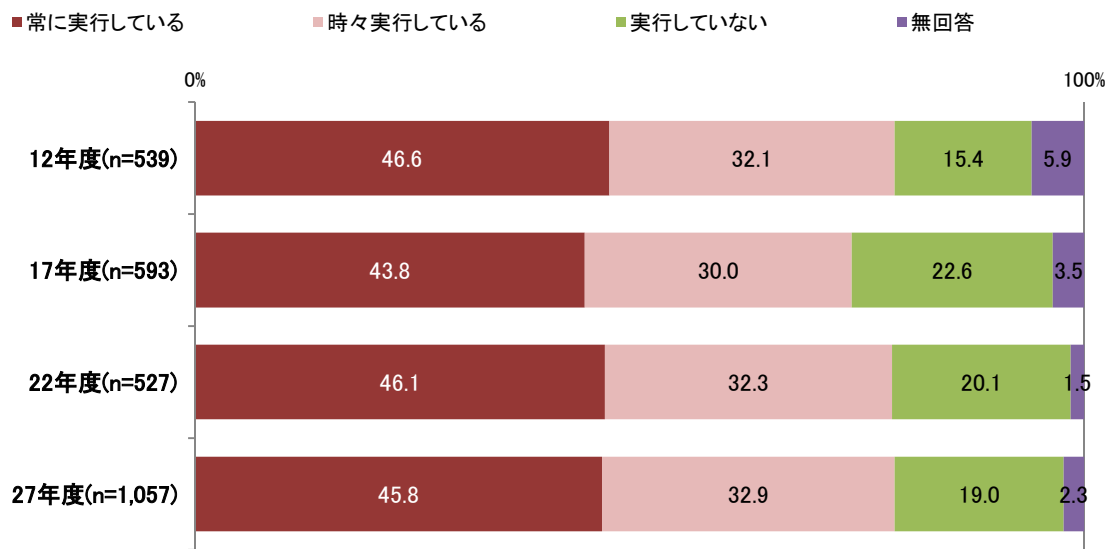


＜グラフ100 公園、道端などに捨てられている、ゴミや空き缶などを拾うなど、環境美化に努めている 今後 経年推移＞



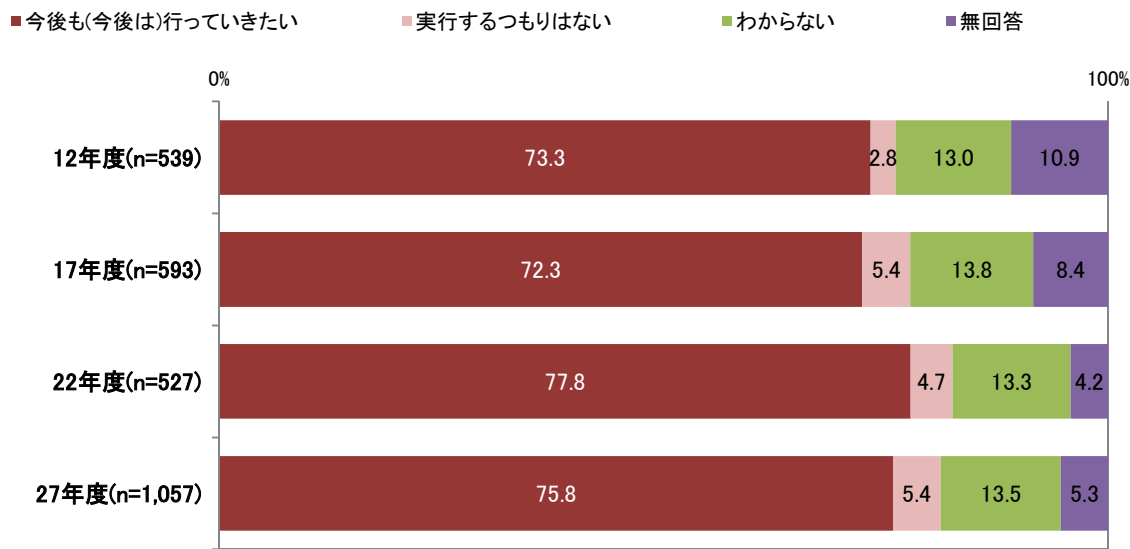
【地区などで行う廃品回収活動などの、環境保全活動に協力している】

《現在》



＜グラフ101 地区などで行う廃品回収活動などの、環境保全活動に協力している 現在 経年推移＞

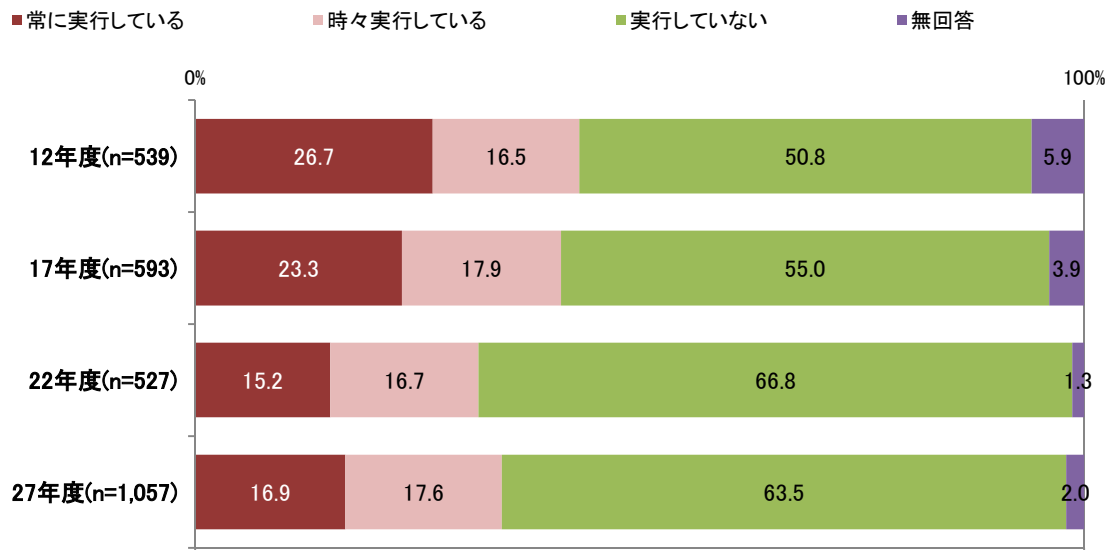
《今後》



＜グラフ102 地区などで行う廃品回収活動などの、環境保全活動に協力している 今後 経年推移＞

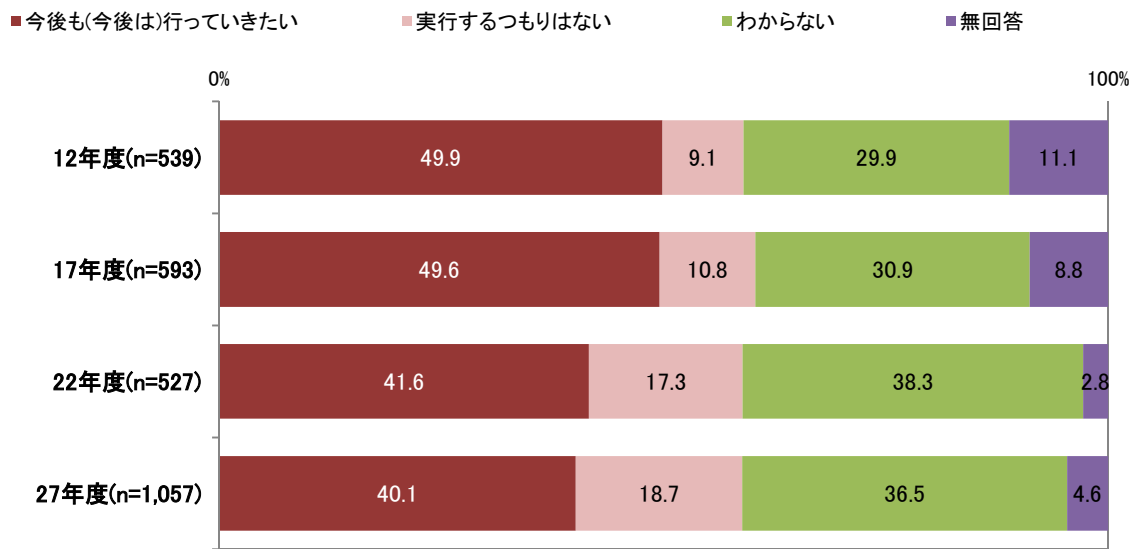
【生ゴミ、庭ゴミのコンポスト化など減量化に努めている】

《現在》



＜グラフ103 生ゴミ、庭ゴミのコンポスト化など減量化に努めている 現在 経年推移＞

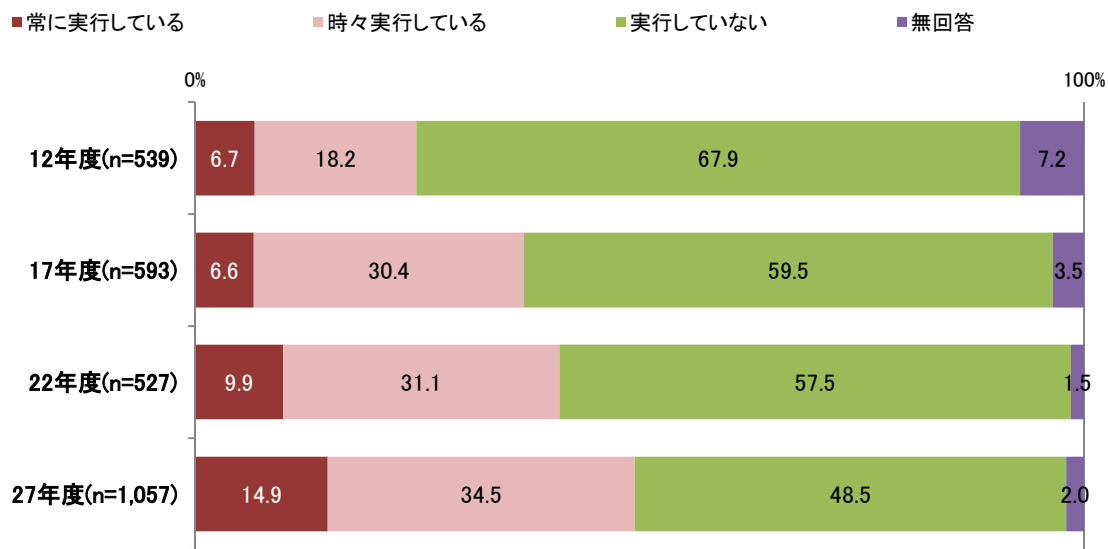
《今後》



＜グラフ104 生ゴミ、庭ゴミのコンポスト化など減量化に努めている 今後 経年推移＞

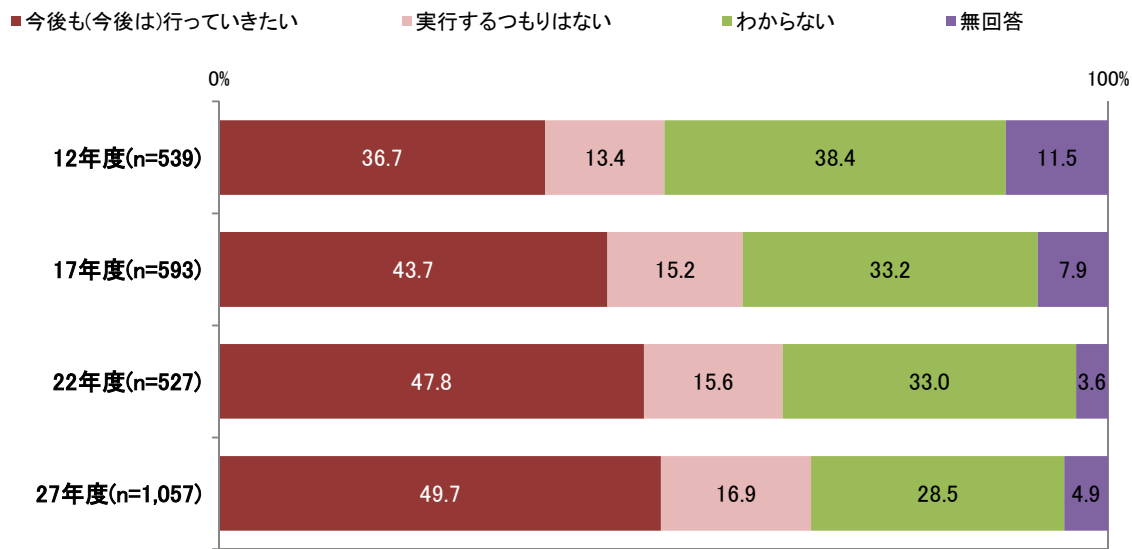
【不用になった衣類や家具などを、フリーマーケットに出すなど、リユース(再使用)に努めている】

《現在》



＜グラフ105 不用になった衣類や家具などを、フリーマーケットに出すなど、リユース(再使用)に努めている 現在 経年推移＞

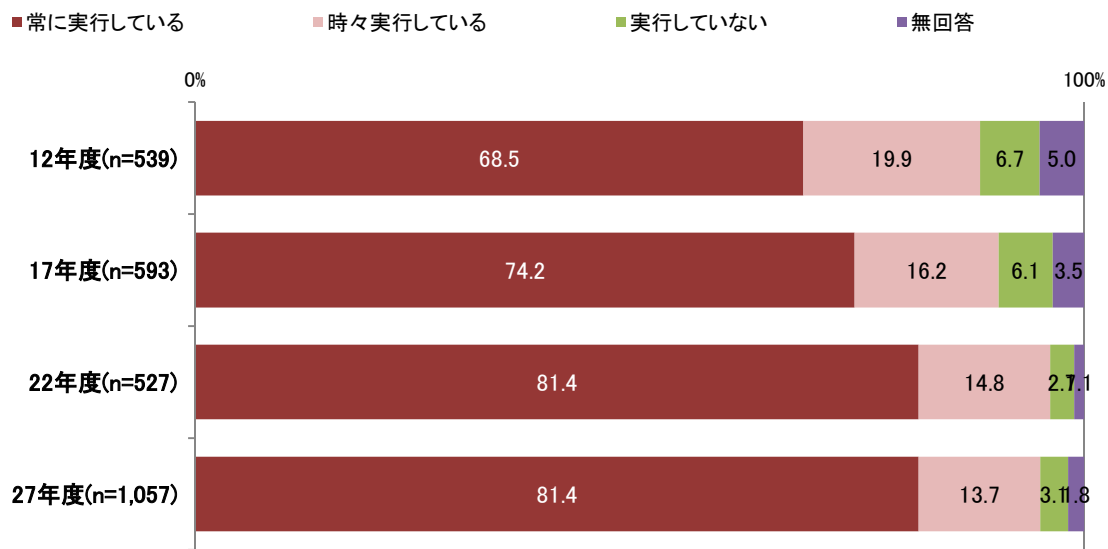
《今後》



＜グラフ106 不用になった衣類や家具などを、フリーマーケットに出すなど、リユース(再使用)に努めている 今後 経年推移＞

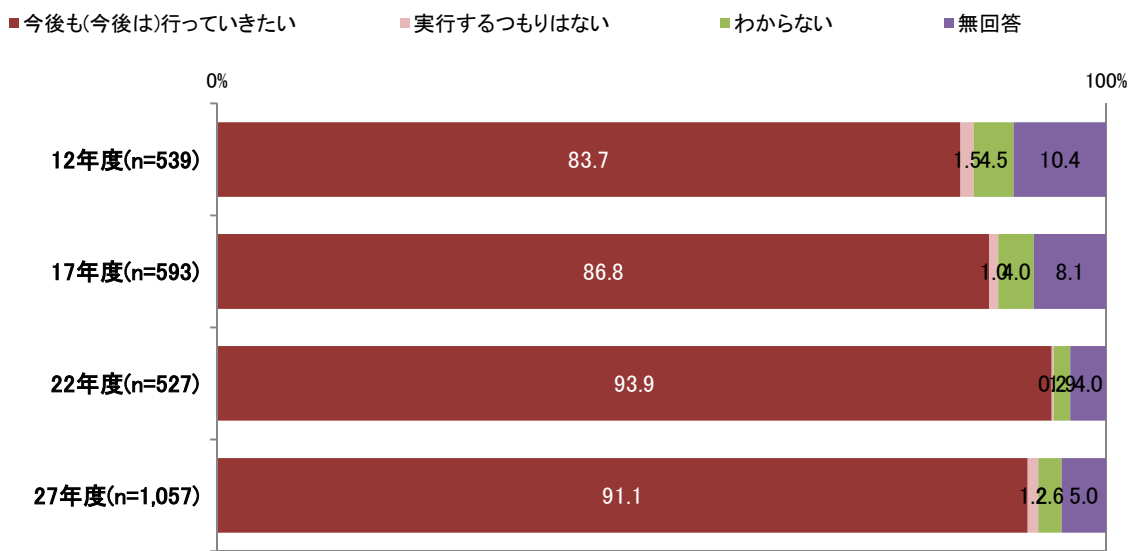
【資源ゴミ(例:古紙、缶、ビン、ペットボトル、トレイなど)は分別してリサイクルに出している】

《現在》



＜グラフ107 資源ゴミ(例:古紙、缶、ビン、ペットボトル、トレイなど)は分別してリサイクルに出している 現在 経年推移＞

《今後》

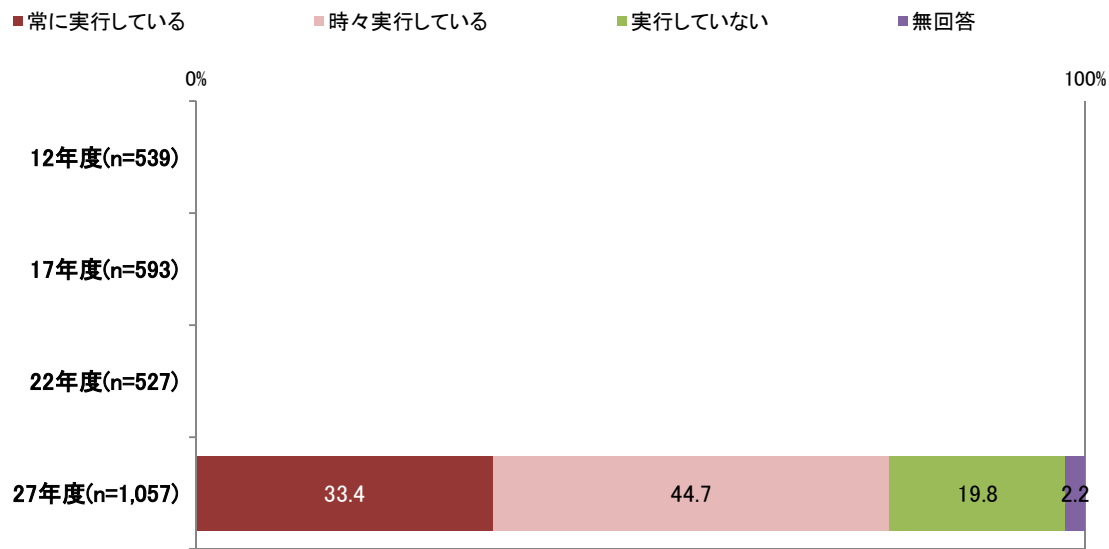


＜グラフ108 資源ゴミ(例:古紙、缶、ビン、ペットボトル、トレイなど)は分別してリサイクルに出している 今後 経年推移＞

【リサイクルされたトイレトペーパーなど環境に配慮した商品を購入する】

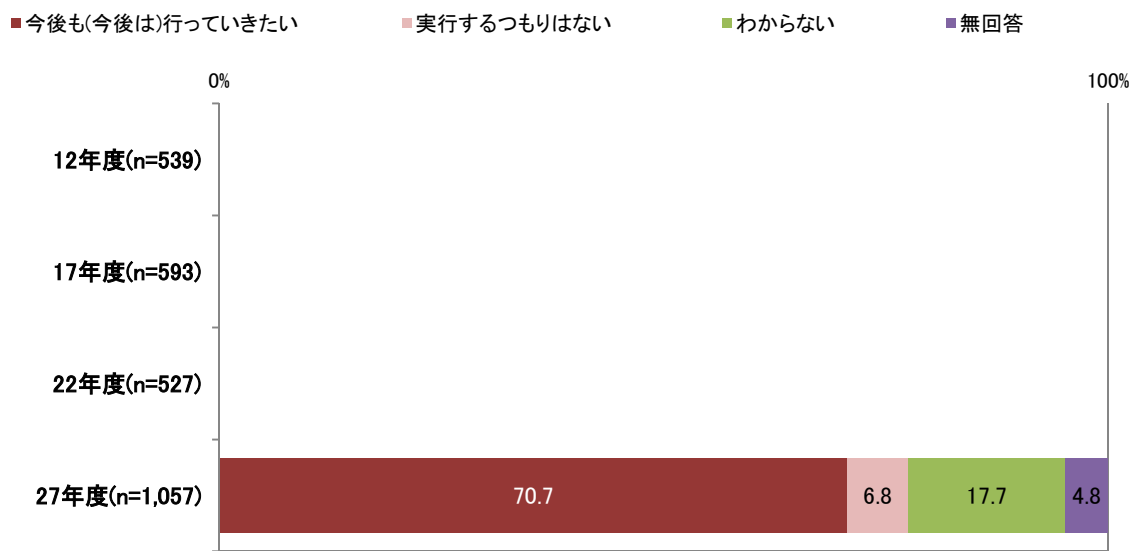
《現在》

※「リサイクルされたトイレトペーパーなど環境に配慮した商品を購入する」は今年度からの項目



＜グラフ109 リサイクルされたトイレトペーパーなど環境に配慮した商品を購入する 現在 経年推移＞

《今後》

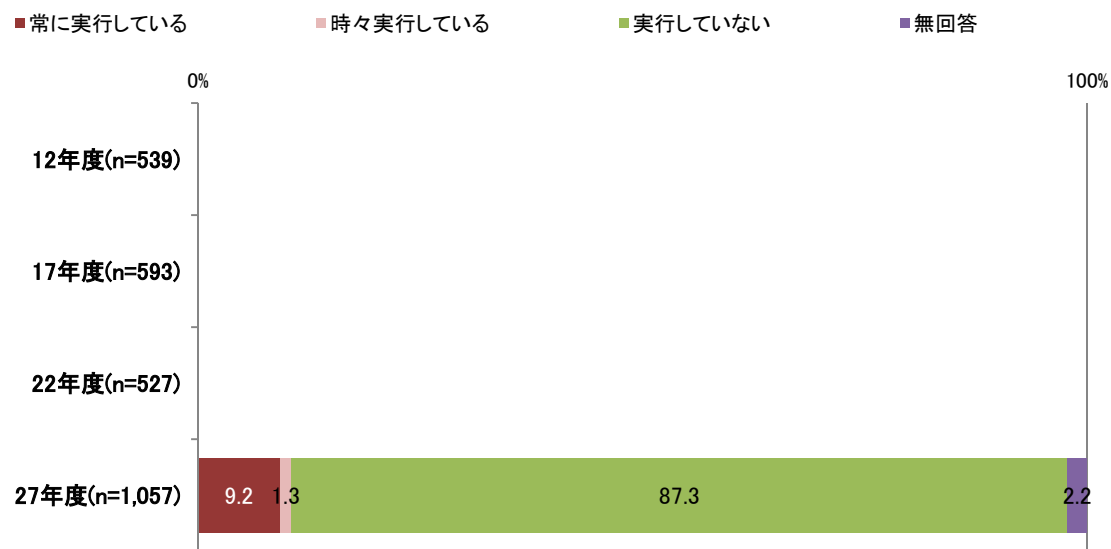


＜グラフ110 リサイクルされたトイレトペーパーなど環境に配慮した商品を購入する 今後 経年推移＞

## 【住宅用太陽光発電設備を導入している】

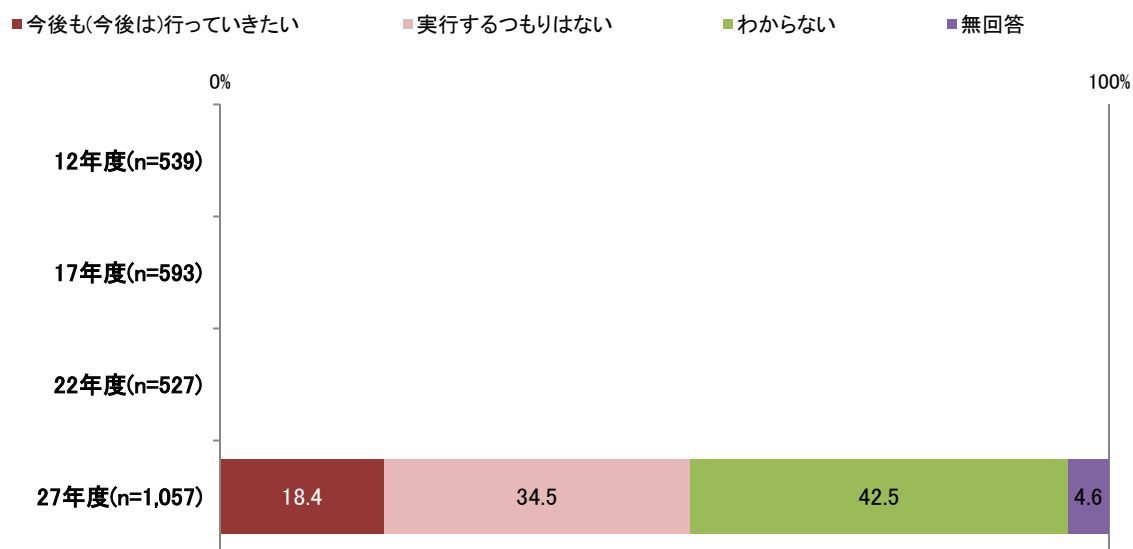
### 《現在》

※「住宅用太陽光発電設備を導入している」は今年度からの項目



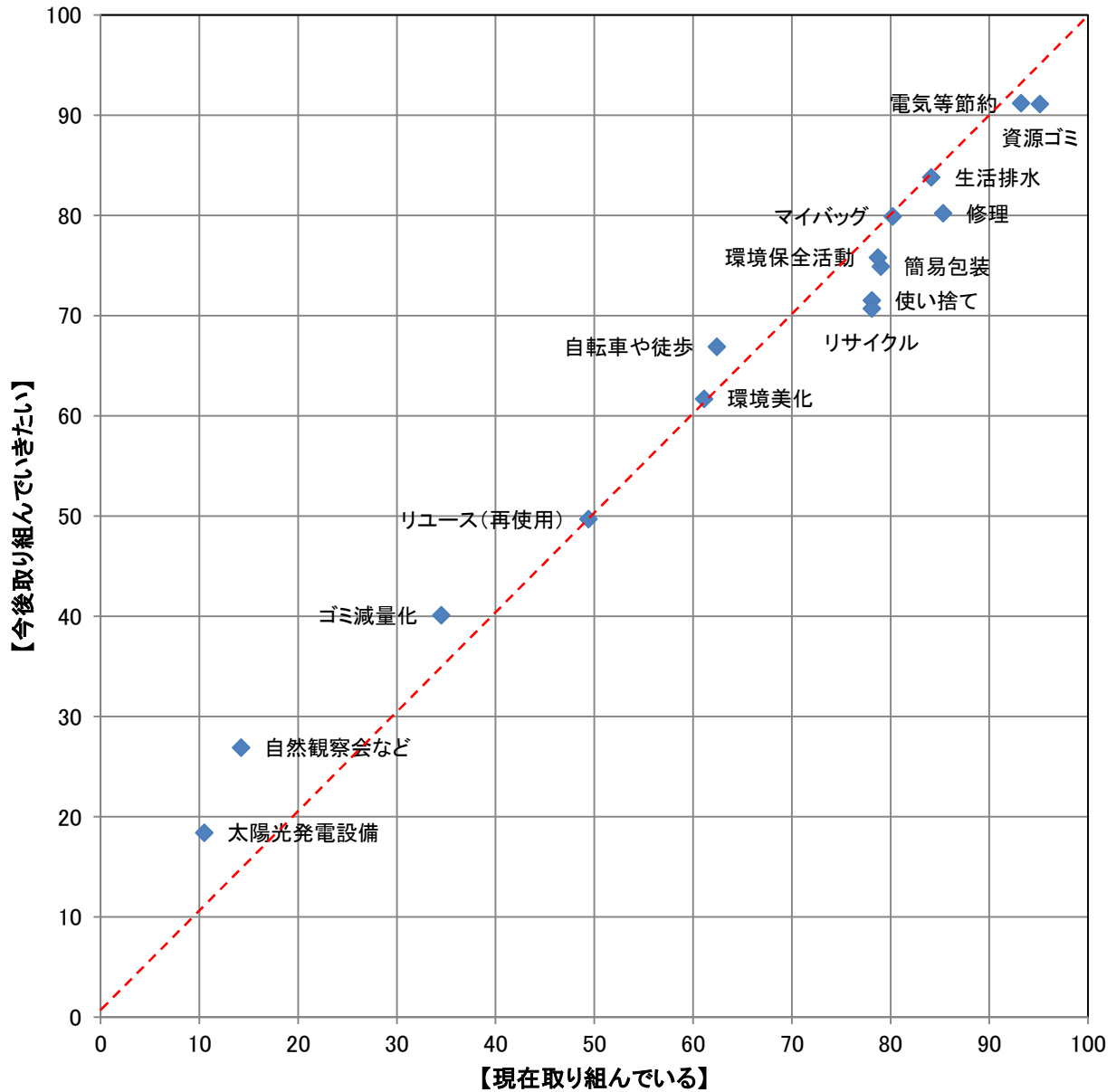
＜グラフ111 住宅用太陽光発電設備を導入している 現在 経年推移＞

### 《今後》



＜グラフ112 住宅用太陽光発電設備を導入している 今後 経年推移＞

(3) 現在と今後の関係



<グラフ113 現在と今後の関係>

今後は取り組んでいく

「現在、取り組み度が低い項目に対しても、今後は取り組んでいきたい。」と考えている。

### 3.6 地球温暖化防止

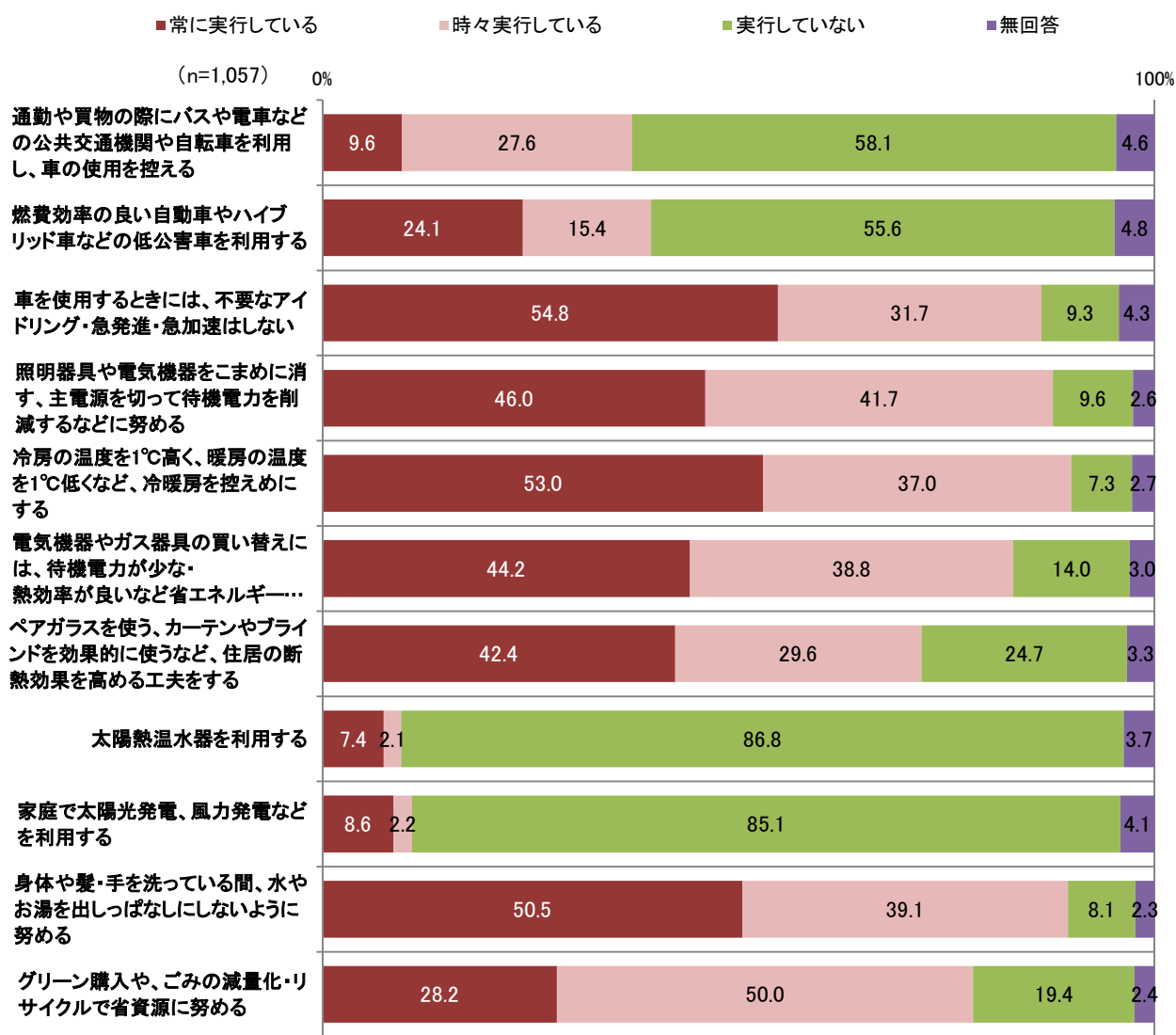
#### 3.6.1 地球温暖化防止のための現在の取組状況と今後の取組意向

問9 あなたは、地球温暖化防止のために、現在どのようなことを心がけていますか。また、今後どのような取組を行っていきたいですか。

以下のそれぞれの項目について、「A. 現在」「B. 今後」から、あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。(○はA, Bそれぞれ1つずつ)

#### (1) 今年度の傾向

##### 〈現在〉



〈グラフ114 地球温暖化防止のための心がけ 現在〉



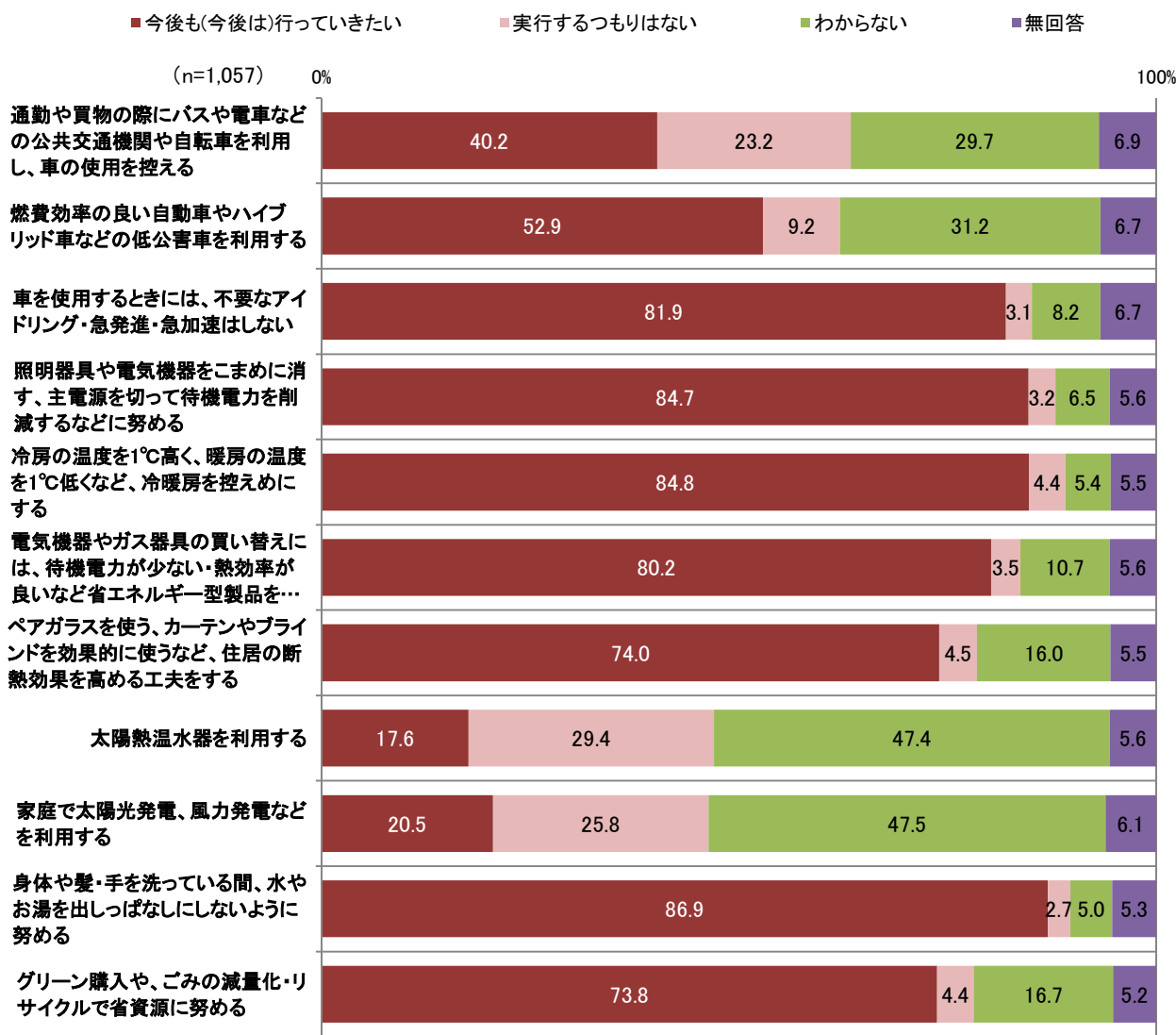
### 1 番実行されている取組は「冷暖房を控えめにする」

実行されている取組として「冷暖房を控えめにする（90.0%）」、「水やお湯を出しっぱなしにしないように努める（89.6%）」、「節電や待機電力を削減するなどに努める（87.7%）」、「不要なアイドリング・急発進・急加速はしない（86.5%）」、「省エネルギー型製品を購入するよう努める（83.0%）」の合わせて5項目については、8割以上の実行率であった。

一方、「太陽熱温水器を利用する（9.5%）」、「太陽光発電、風力発電などを利用する（10.8%）」、「公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を控える（37.2%）」、「ハイブリッド車などの低公害車を利用する（39.5%）」の合わせて4項目については、4割未満の実行率であった。

※ 上記文章中の「実行している」は、「常に実行している」と「時々実行している」の割合を合算して算出。

## 《今後》



＜グラフ115 地球温暖化防止のための心がけ 今後＞

今後、最も行っていきたい取組は「水やお湯を出しっぱなしにしないように努める」

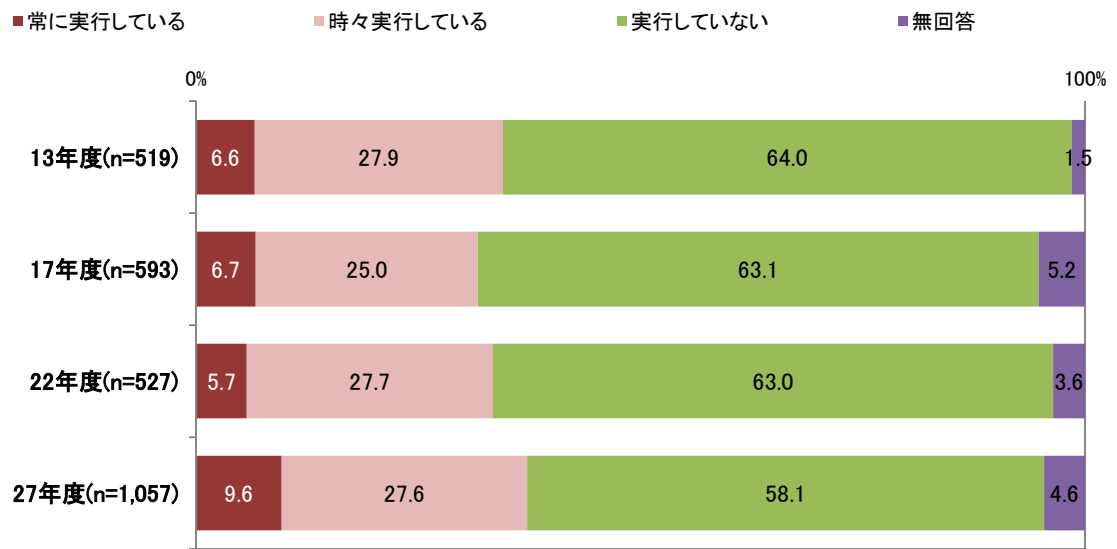
「水やお湯を出しっぱなしにしないように努める（86.9%）」、「冷暖房を控えめにする（84.8%）」、「節電や待機電力を削減するなどに努める（84.7%）」、「不要なアイドリング・急発進・急加速はしない（81.9%）」、「省エネルギー型製品を購入するよう努める（80.2%）」の合わせて5項目について、8割以上の人が今後も(今後は)行っていきたいと回答している。

《現在》において、実行率が4割未満だった4項目については、「太陽熱温水器を利用する（17.6%）」、「太陽光発電、風力発電などを利用する（20.5%）」、「公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を抑える（40.2%）」、「ハイブリッド車などの低公害車を利用する（52.9%）」であった。

(2) 経年推移

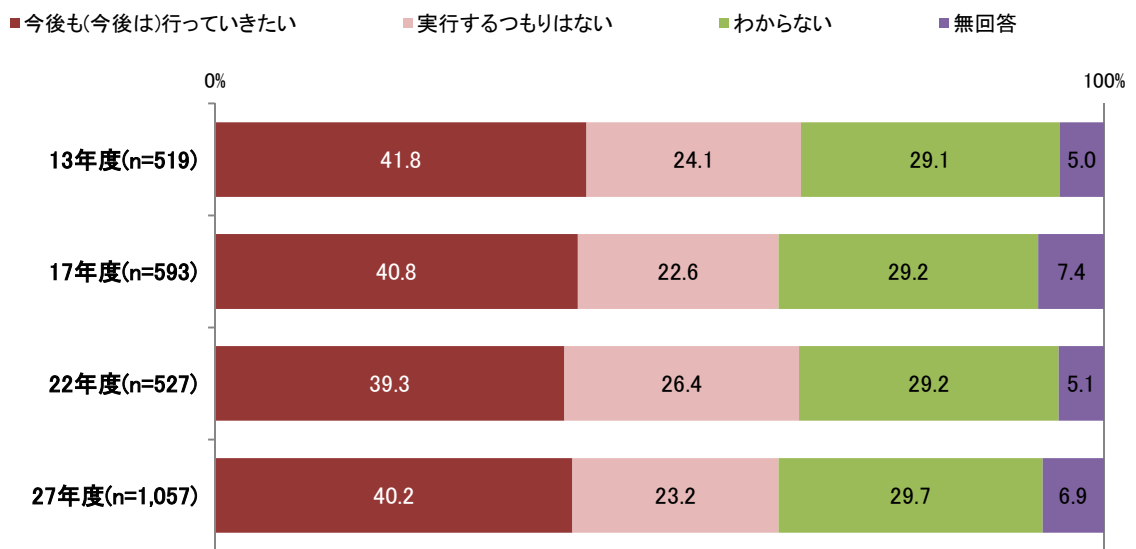
【公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を控える】

《現在》



＜グラフ116 公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を控える 現在 経年推移＞

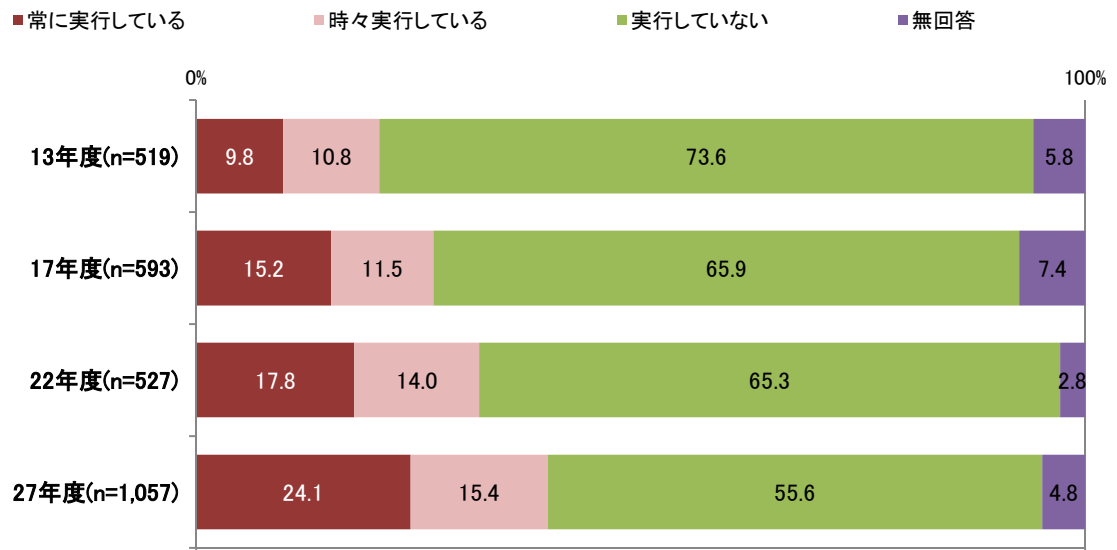
《今後》



＜グラフ117 公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を控える 今後 経年推移＞

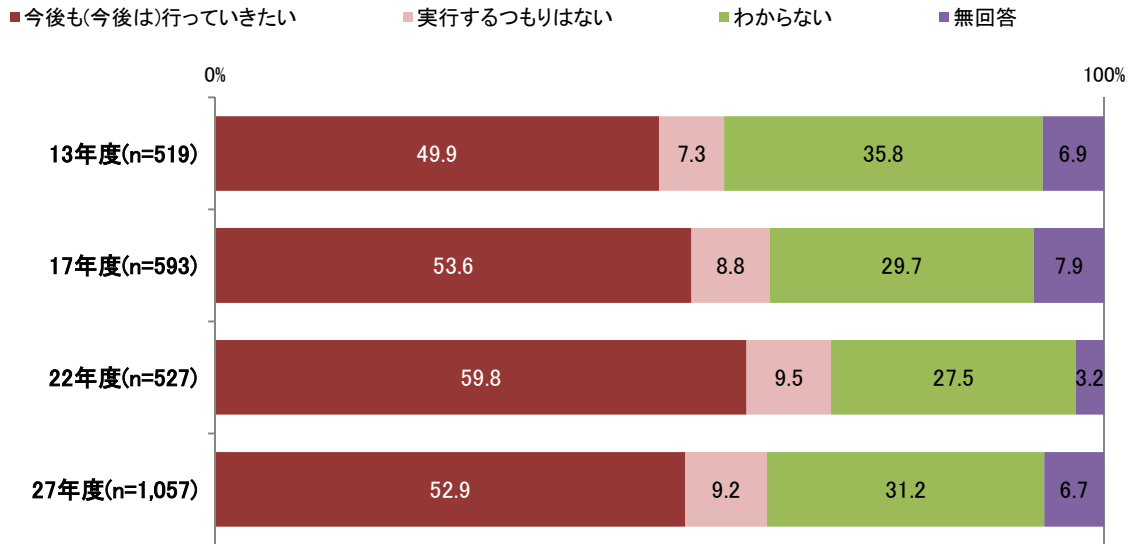
【ハイブリッド車などの低公害車を利用する】

《現在》



＜グラフ118 ハイブリッド車などの低公害車を利用する 現在 経年推移＞

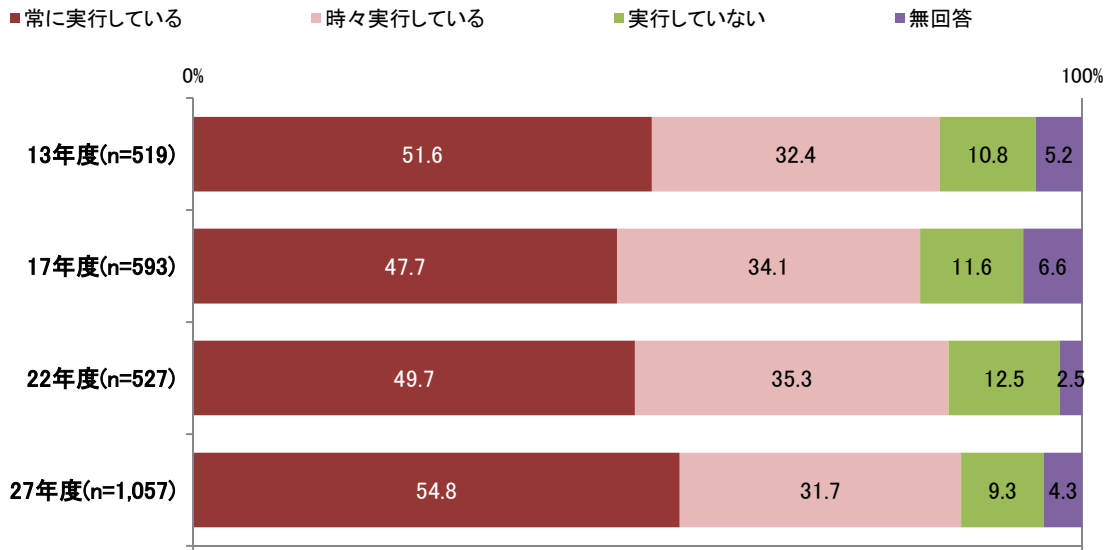
《今後》



＜グラフ119 ハイブリッド車などの低公害車を利用する 今後 経年推移＞

【不要なアイドリング・急発進・急加速はしない】

《現在》



<グラフ120 不要なアイドリング・急発進・急加速はしない 現在 経年推移 >

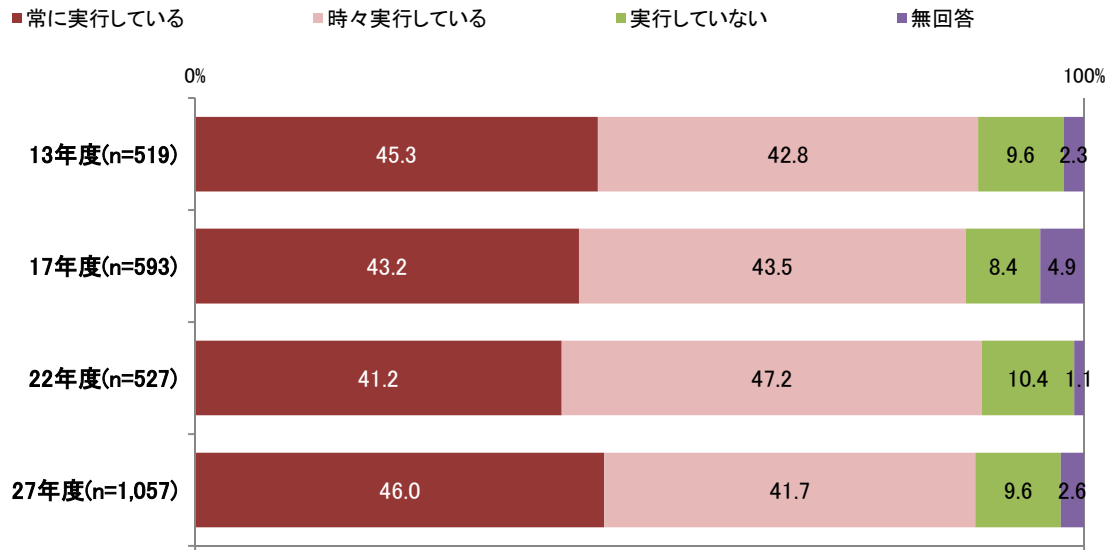
《今後》



<グラフ121 不要なアイドリング・急発進・急加速はしない 今後 経年推移 >

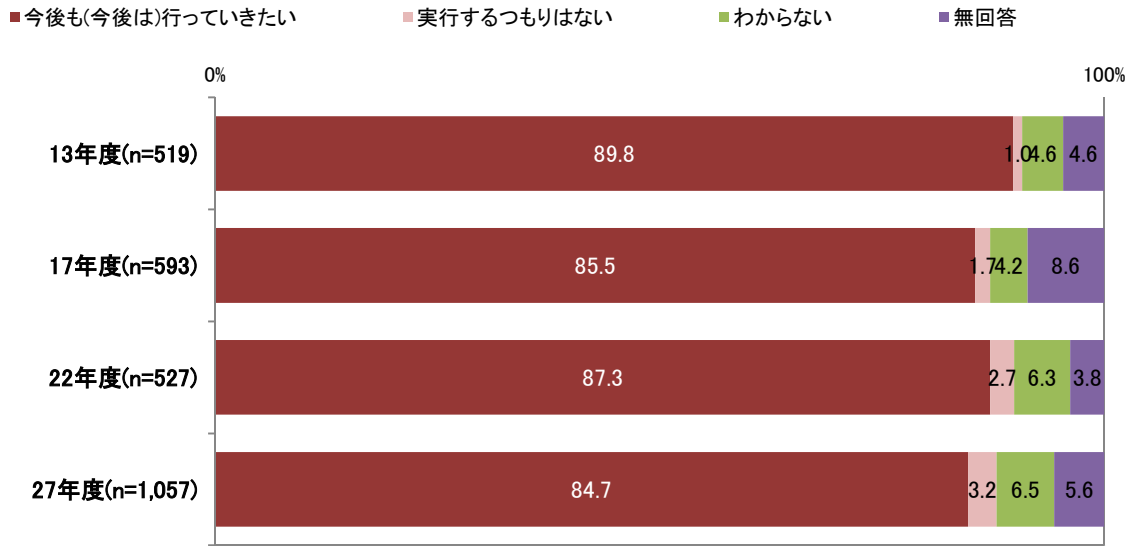
【節電や待機電力を削減するなどに努める】

《現在》



＜グラフ122 節電や待機電力を削減するなどに努める 現在 経年推移＞

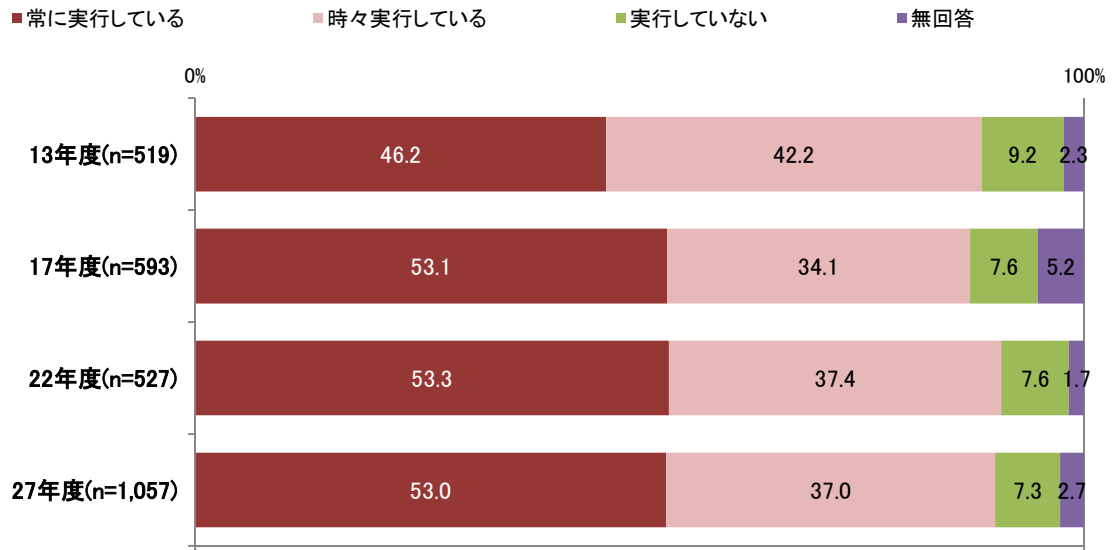
《今後》



＜グラフ123 節電や待機電力を削減するなどに努める 今後 経年推移＞

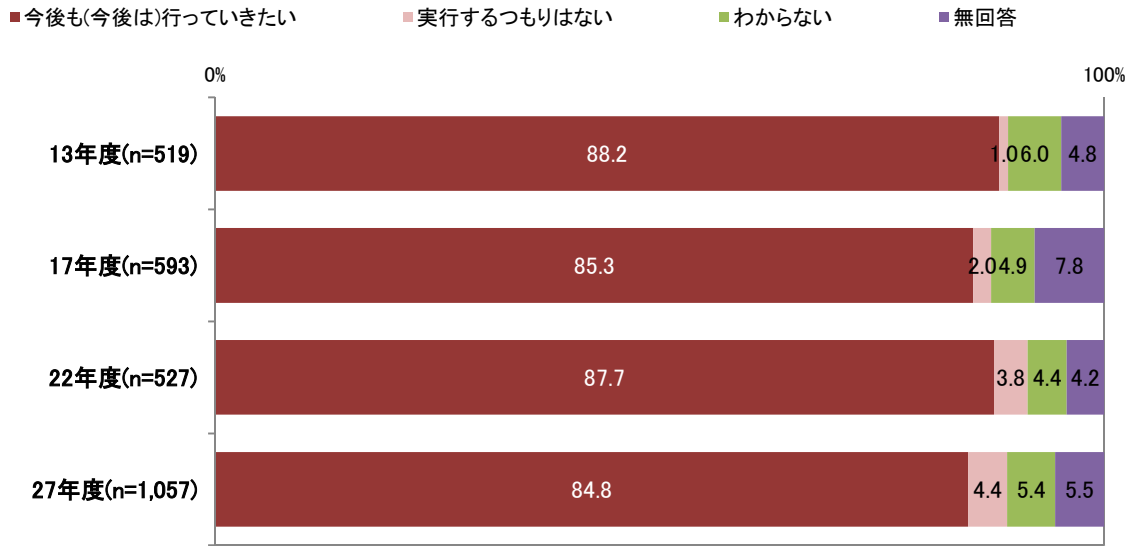
【冷暖房を控えめにする】

《現在》



＜グラフ124 冷暖房を控えめにする 現在 経年推移＞

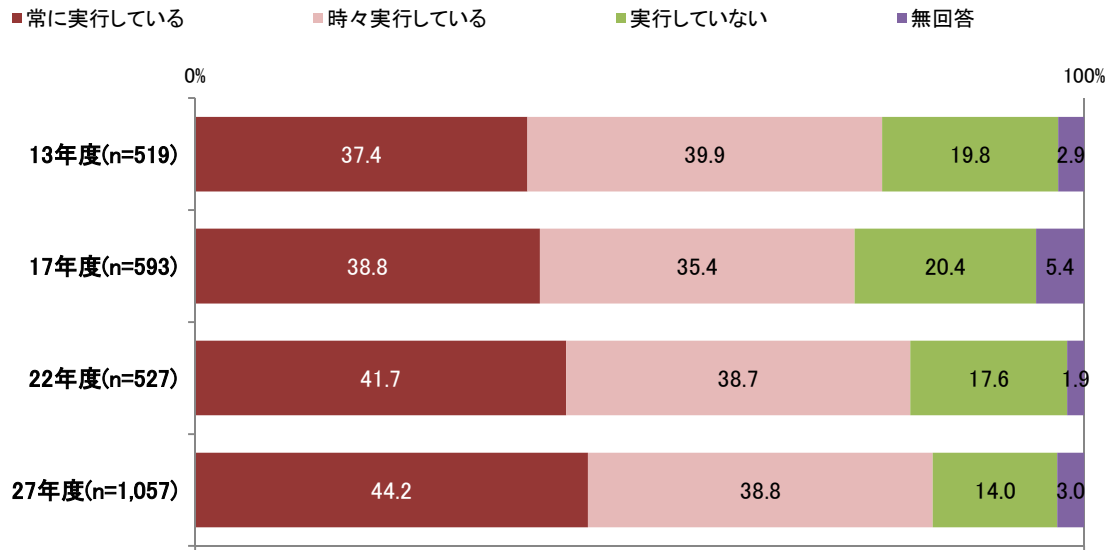
《今後》



＜グラフ125 冷暖房を控えめにする 今後 経年推移＞

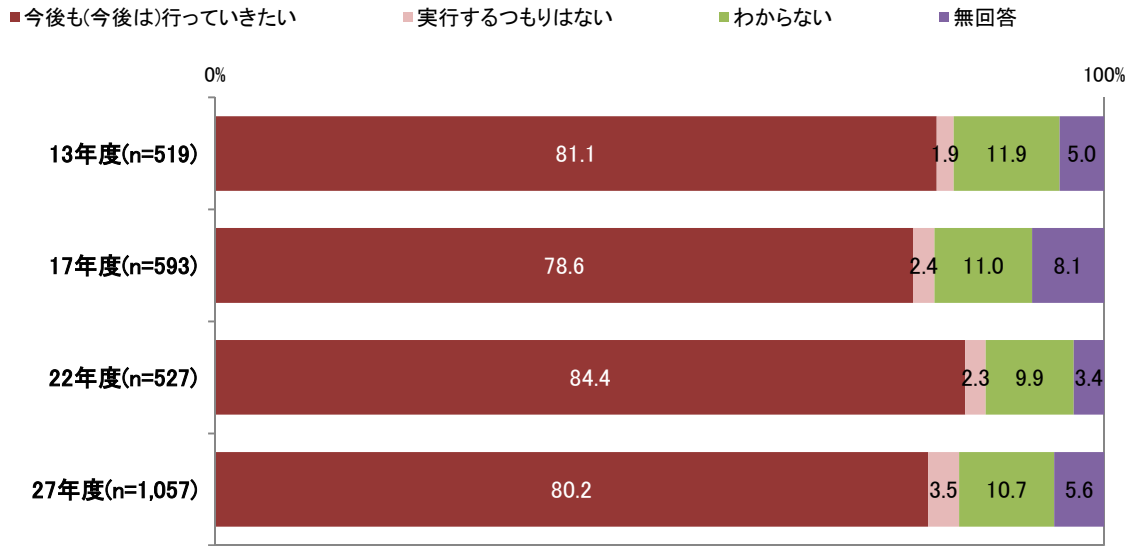
【省エネルギー型製品を購入するよう努める】

《現在》



<グラフ126 省エネルギー型製品を購入するよう努める 現在 経年推移>

《今後》

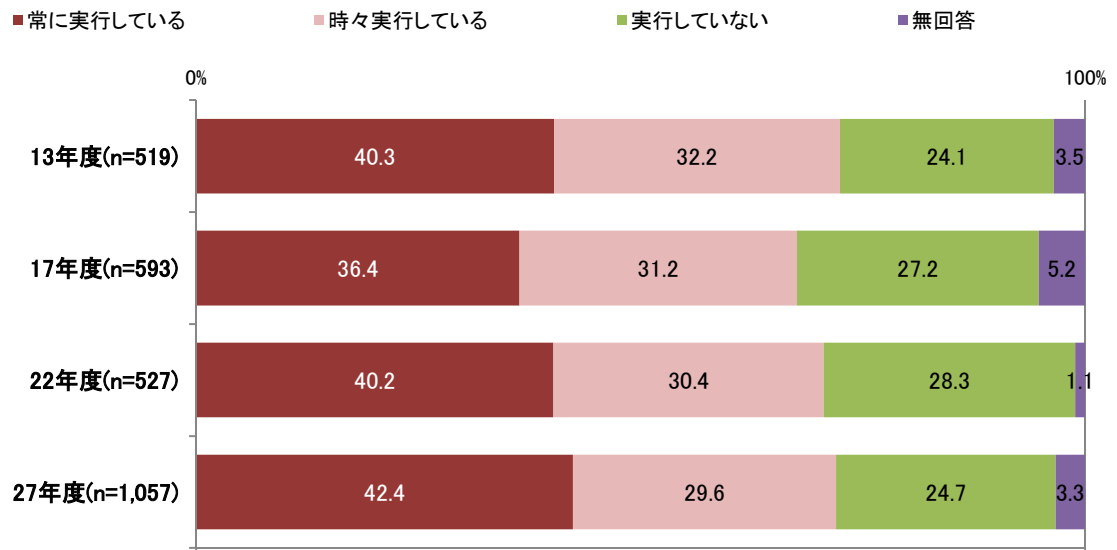


<グラフ127 省エネルギー型製品を購入するよう努める 今後 経年推移>



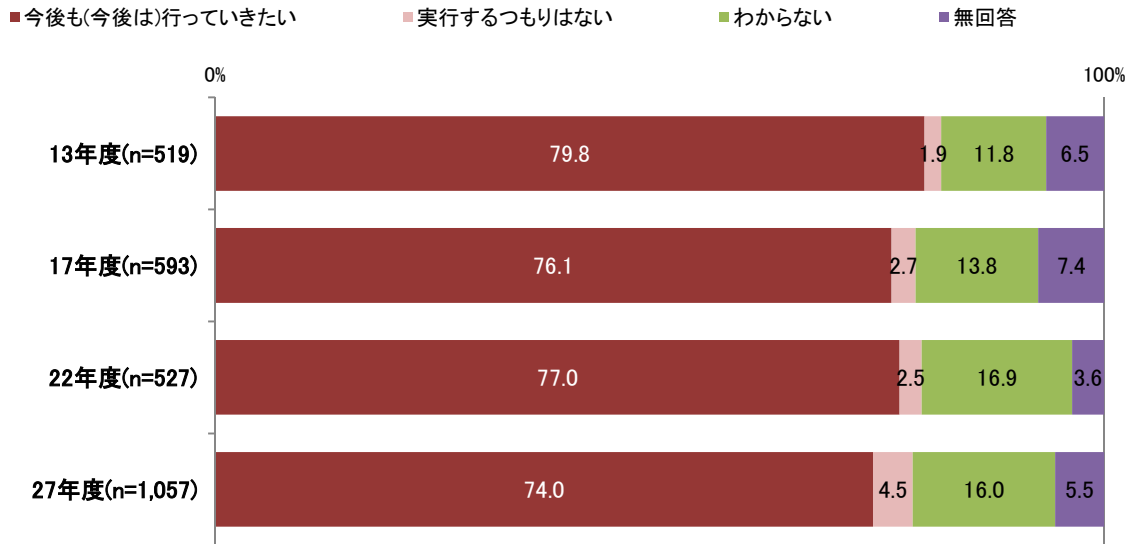
【住居の断熱効果を高める工夫をする】

《現在》



＜グラフ128 住居の断熱効果を高める工夫をする 現在 経年推移＞

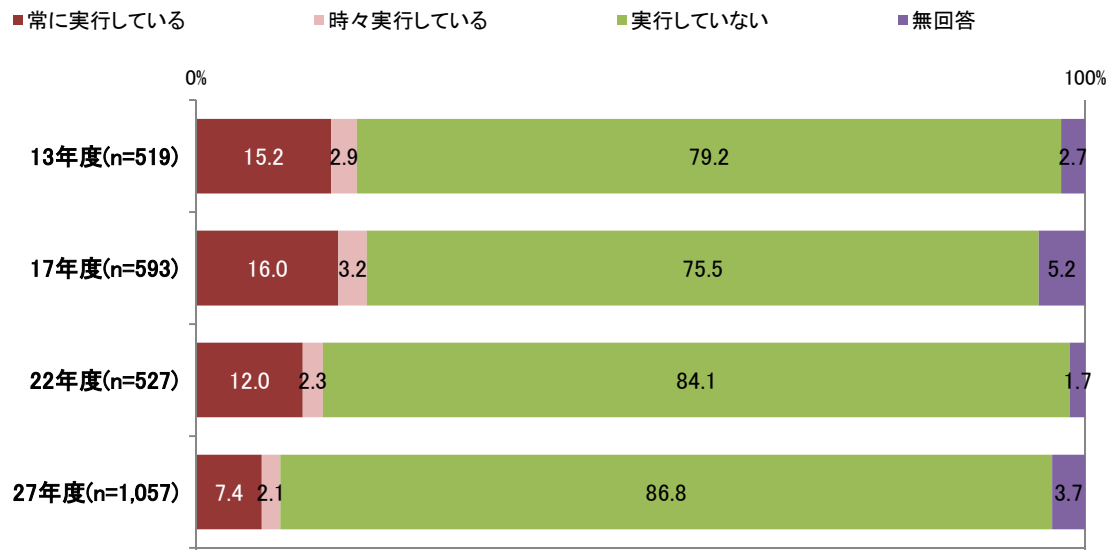
《今後》



＜グラフ129 住居の断熱効果を高める工夫をする 今後 経年推移＞

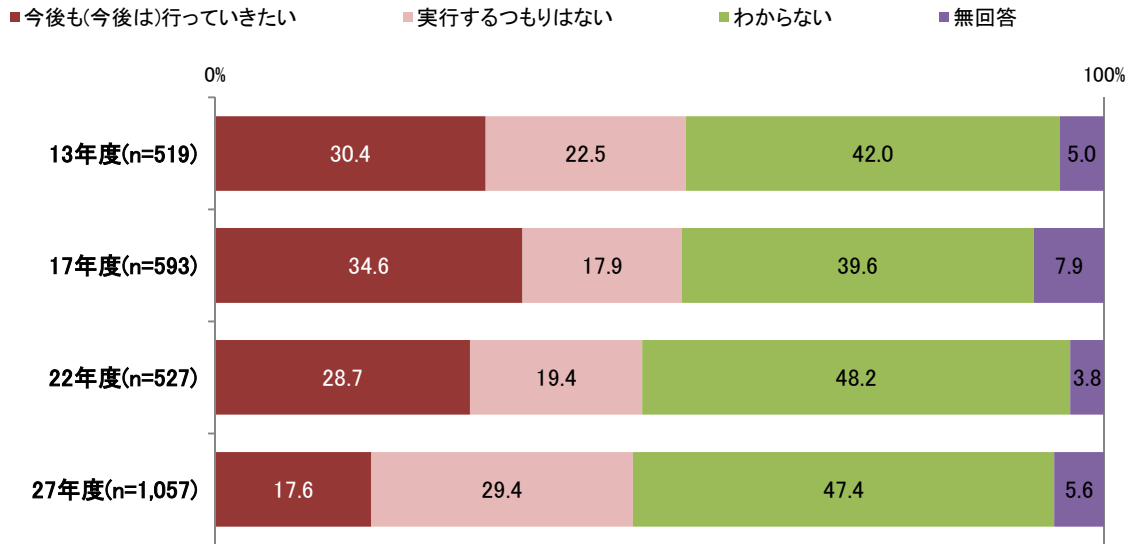
【太陽熱温水器を利用する】

《現在》



＜グラフ130 太陽熱温水器を利用する 現在 経年推移＞

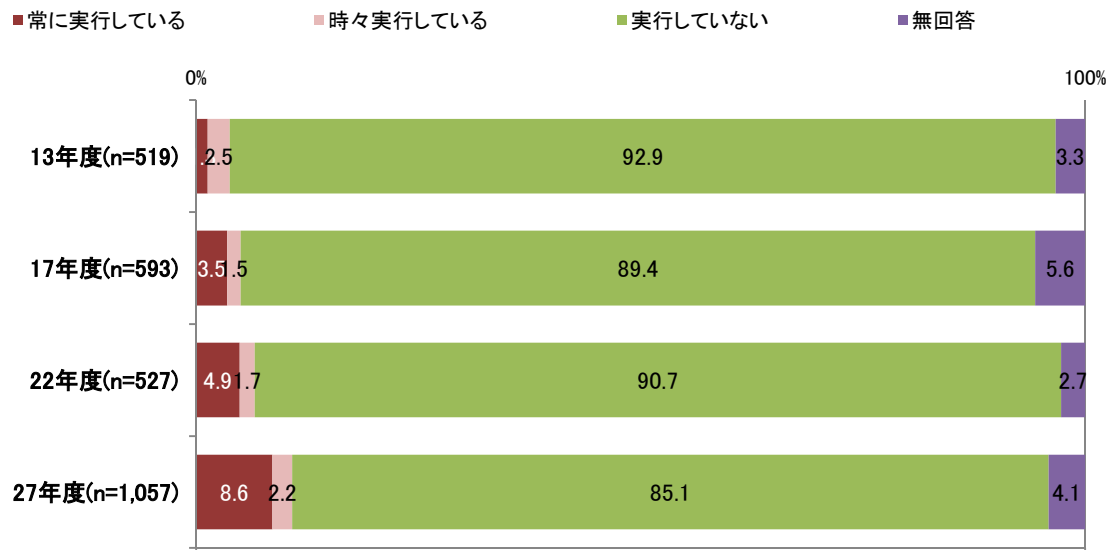
《今後》



＜グラフ131 太陽熱温水器を利用する 今後 経年推移＞

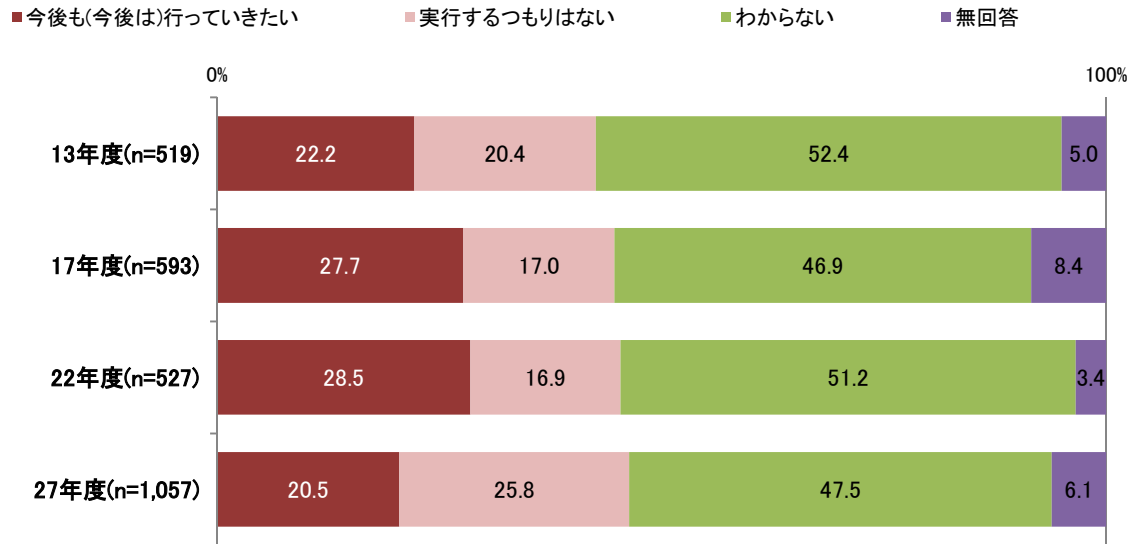
【太陽光発電、風力発電などを利用する】

《現在》



＜グラフ132 太陽光発電、風力発電などを利用する 現在 経年推移＞

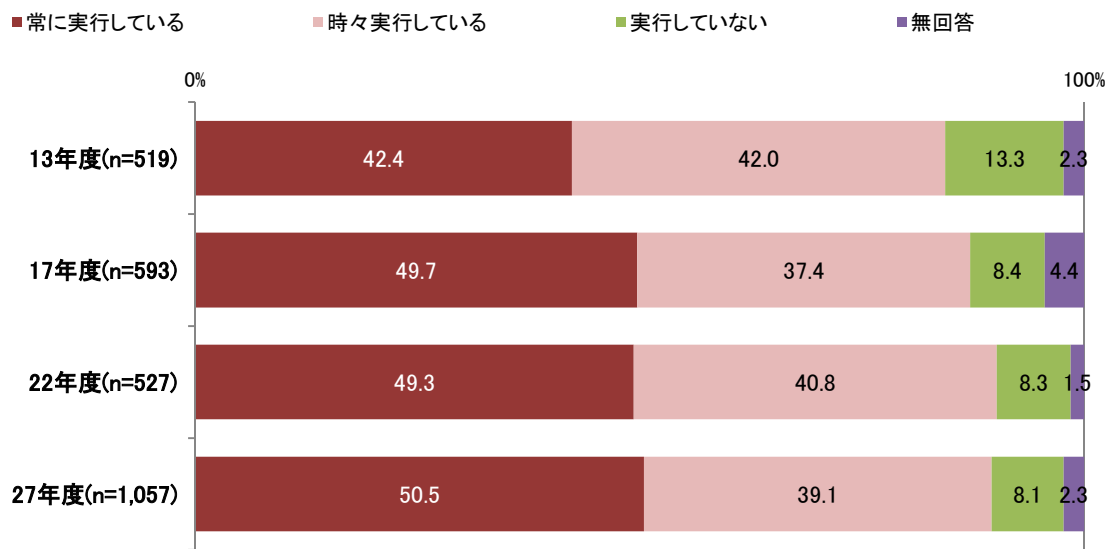
《今後》



＜グラフ133 太陽光発電、風力発電などを利用する 今後 経年推移＞

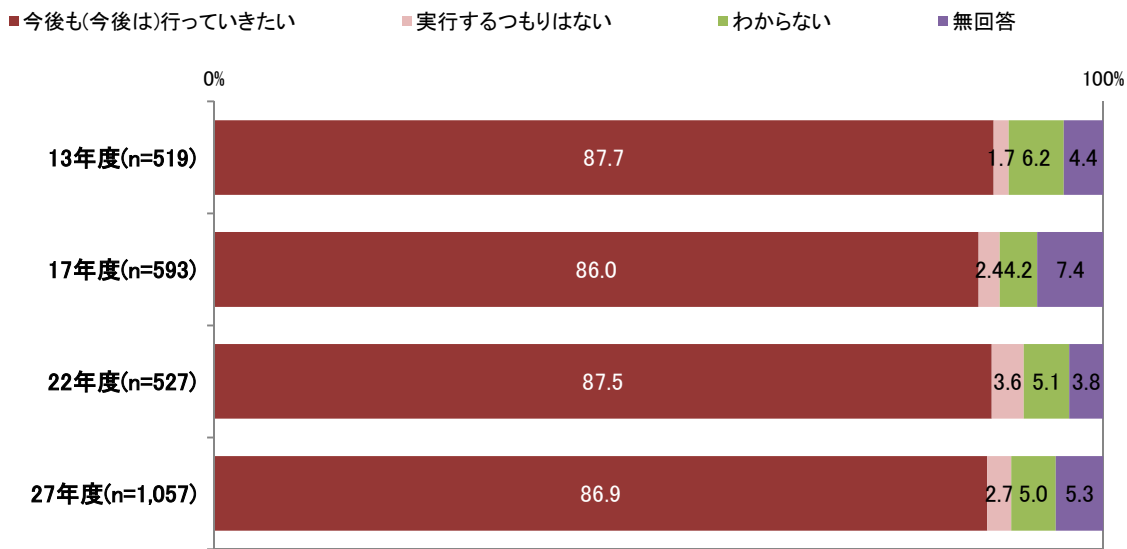
【水やお湯を出しっぱなしにしないように努める】

《現在》



＜グラフ134 水やお湯を出しっぱなしにしないように努める 現在 経年推移＞

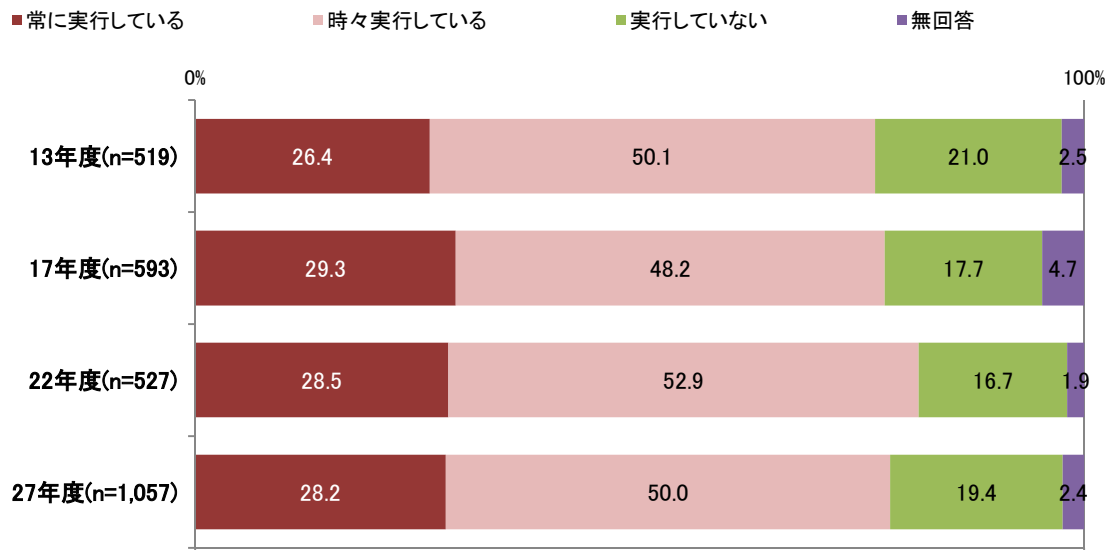
《今後》



＜グラフ135 水やお湯を出しっぱなしにしないように努める 今後 経年推移＞

【グリーン購入や、ごみの減量化・リサイクルで省資源に努める】

《現在》

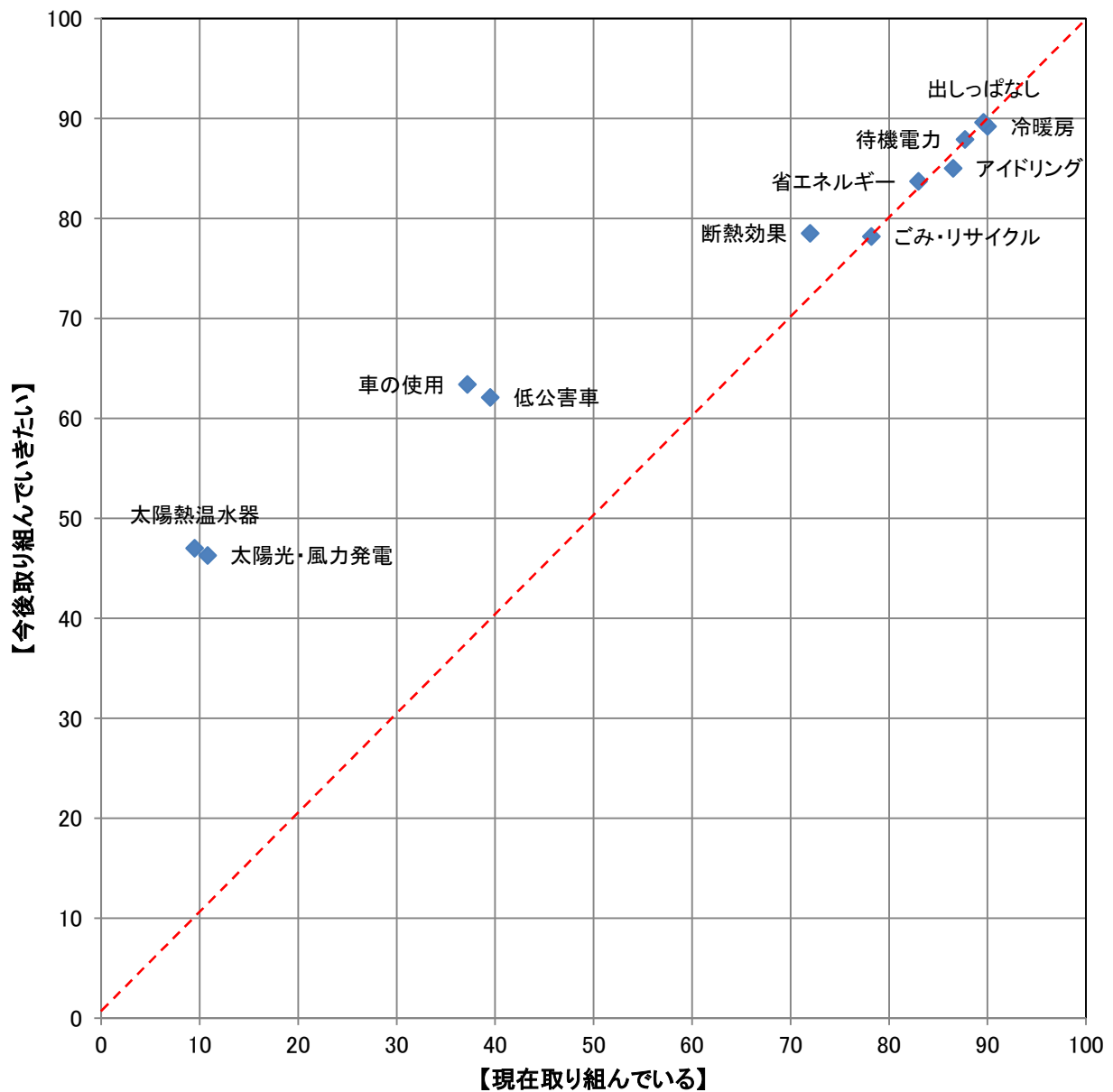


＜グラフ136 グリーン購入や、ごみの減量化・リサイクルで省資源に努める  
現在 経年推移＞

《今後》



＜グラフ137 グリーン購入や、ごみの減量化・リサイクルで省資源に努める  
今後 経年推移＞



＜グラフ138 地球温暖化防止のための現在の取組と今後の意向＞

現在の取組状況において二極化

《現在》の取組の中で「不要なアイドリング・急発進・急加速はしない」「省エネルギー型製品を購入するよう努める」「住居の断熱効果を高める工夫をする」「太陽光発電、風力発電などを利用する」の4項目で、実行しているとした人の割合が増加した。

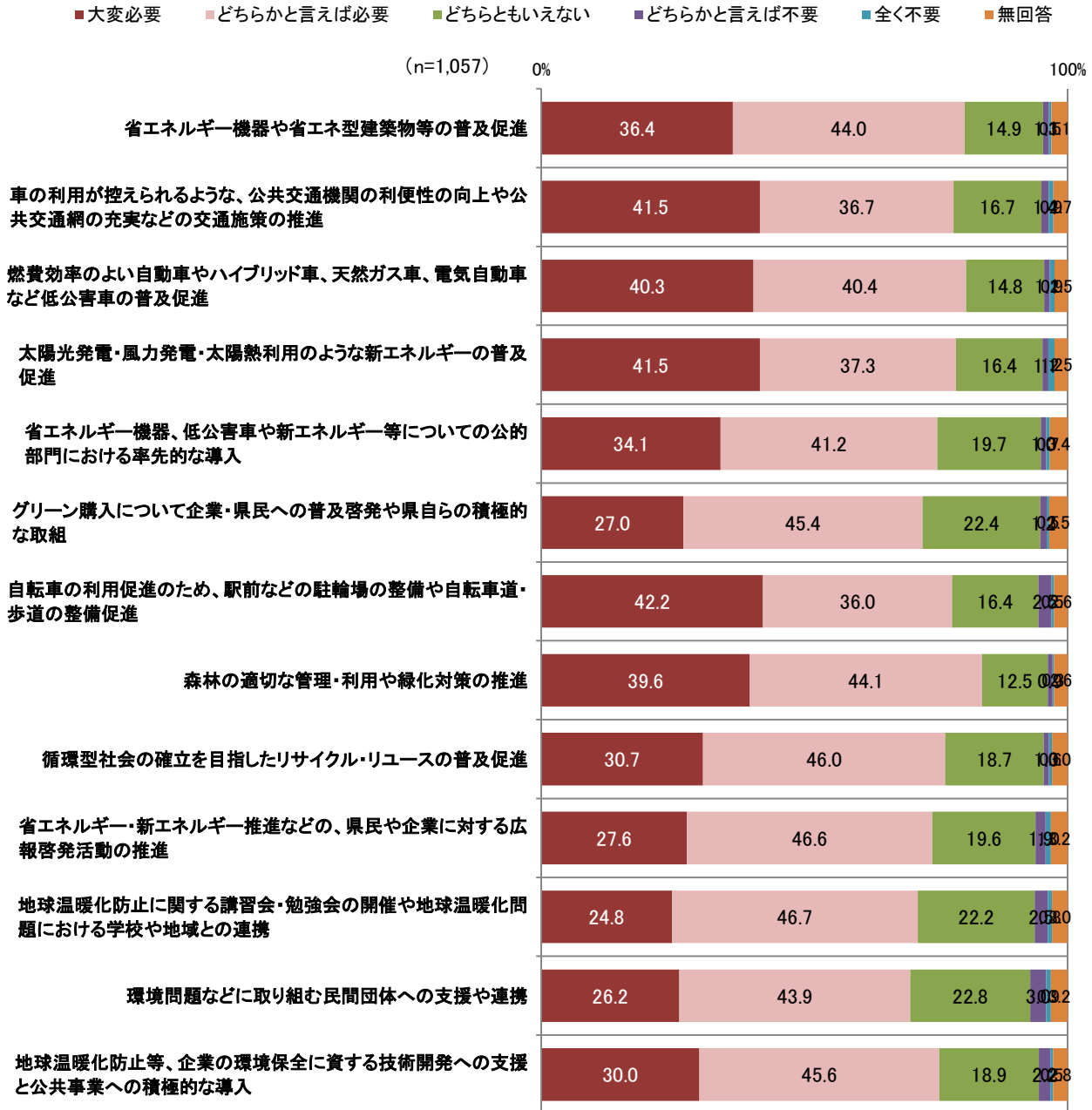
グラフ92において、0から右上に伸びている斜線よりも、上側にプロットされている項目は、現在の取組に対し今後の取組意向が高いことを示している。

現在の取組状況において二極化しており、現在の実行率が低いグループでは、今後の取組意欲が高い。

### 3.6.2 地球温暖化防止のために県に求められる取組

問10 あなたは、地球温暖化防止のため、県としてどのような取組をしていくことが必要だと思いますか。それぞれの課題について、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

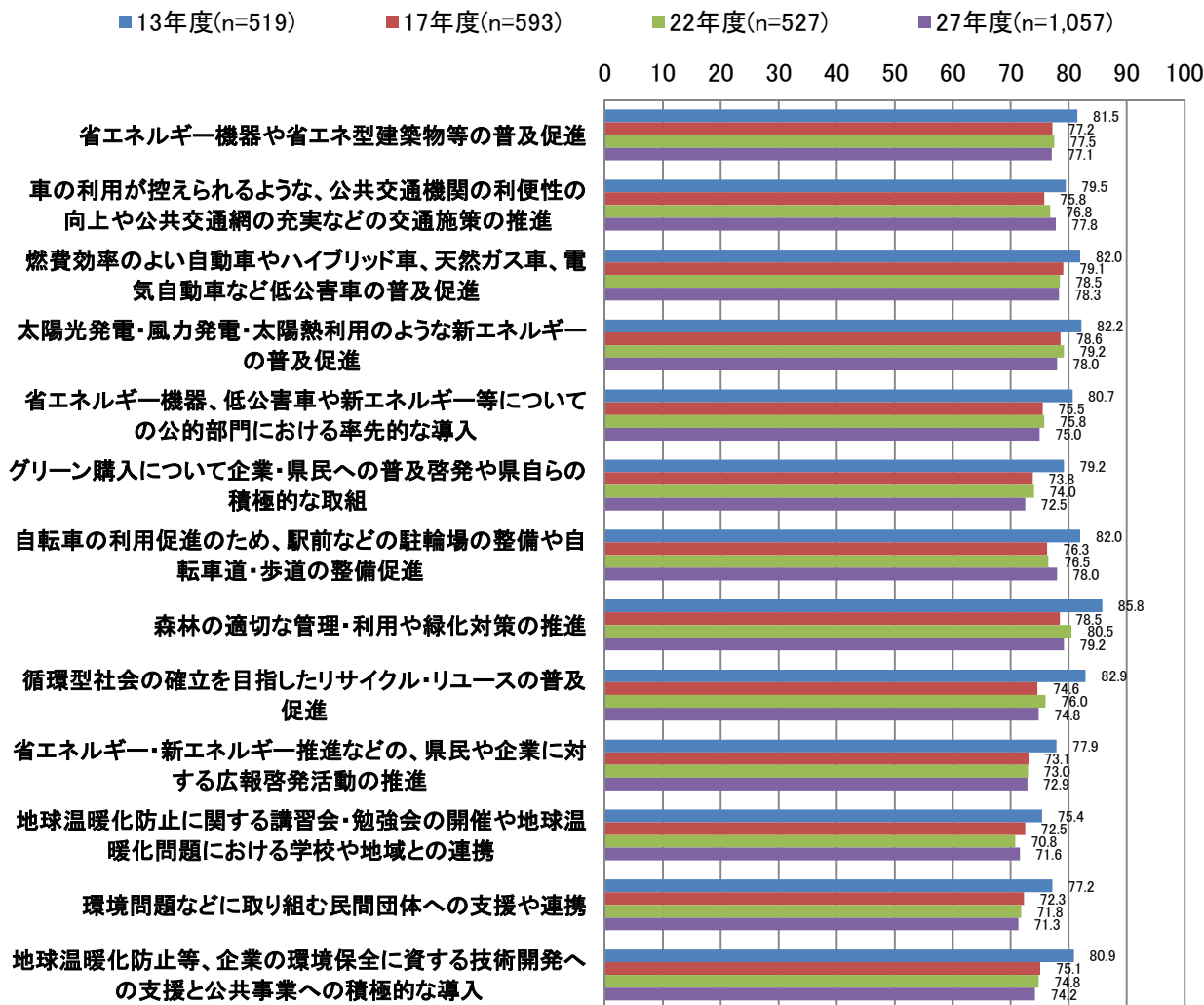
#### (1) 今年度の傾向



<グラフ139 地球温暖化防止のために県に求められる取組>

## (2) 経年推移（加重平均）

本設問では、「大変必要」=100点、「どちらかと言えば必要」=75点、「どちらともいえない」=50点、「どちらかと言えば不要」=25点、「全く不要」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



＜グラフ140 地球温暖化防止のために県に求められる取組 加重平均 経年推移＞

県に最も求められる取組は「森林の適切な管理・利用や緑化対策の推進」

県に最も求められる取組は「森林の適切な管理・利用や緑化対策の推進（79.2%）」、2番目が「燃費効率のよい自動車やハイブリッド車、天然ガス車、電気自動車など低公害車の普及促進（78.3%）」、3番目が「太陽光発電・風力発電・太陽熱利用のような新エネルギーの普及促進（78.0%）」、「自転車の利用促進のため、駅前などの駐輪場の整備や自転車道・歩道の整備促進（78.0%）」、であった。



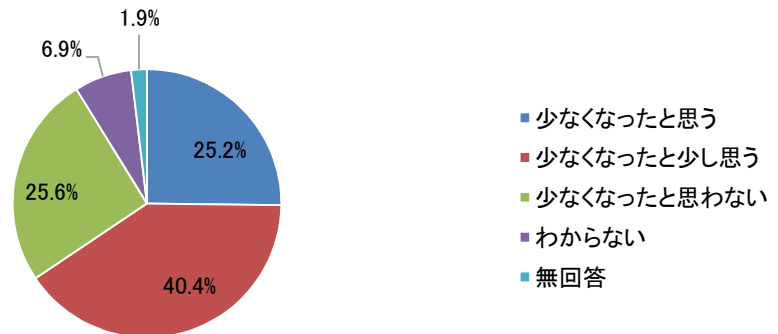
### 3.7 生物多様性の保全

#### 3.7.1 身のまわりの自然環境の5、6年前との変化

開発や乱獲等による野生生物の種の絶滅や減少、里山・田園地域などの荒廃による生態系の分断や質の劣化、外来種の影響による在来種の絶滅や減少が問題化している中、2014年10月に韓国・ピョンチャンにおいて、生物多様性条約第12回締約国会議（COP12）が開催されました。

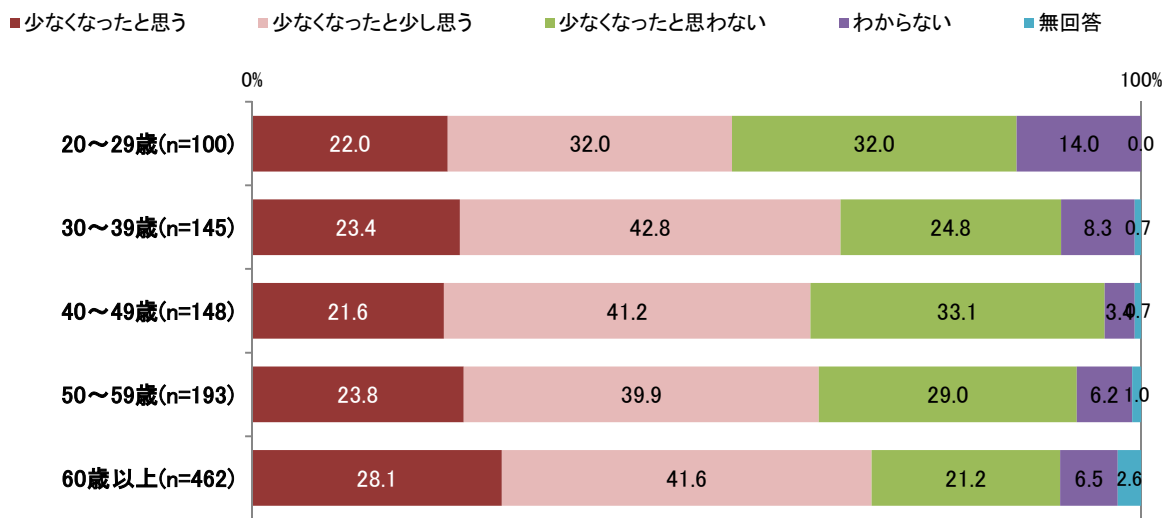
問11（1）あなたは、5、6年前と比べて、身近な自然環境が少なくなってきたと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

#### (1) 今年度の傾向



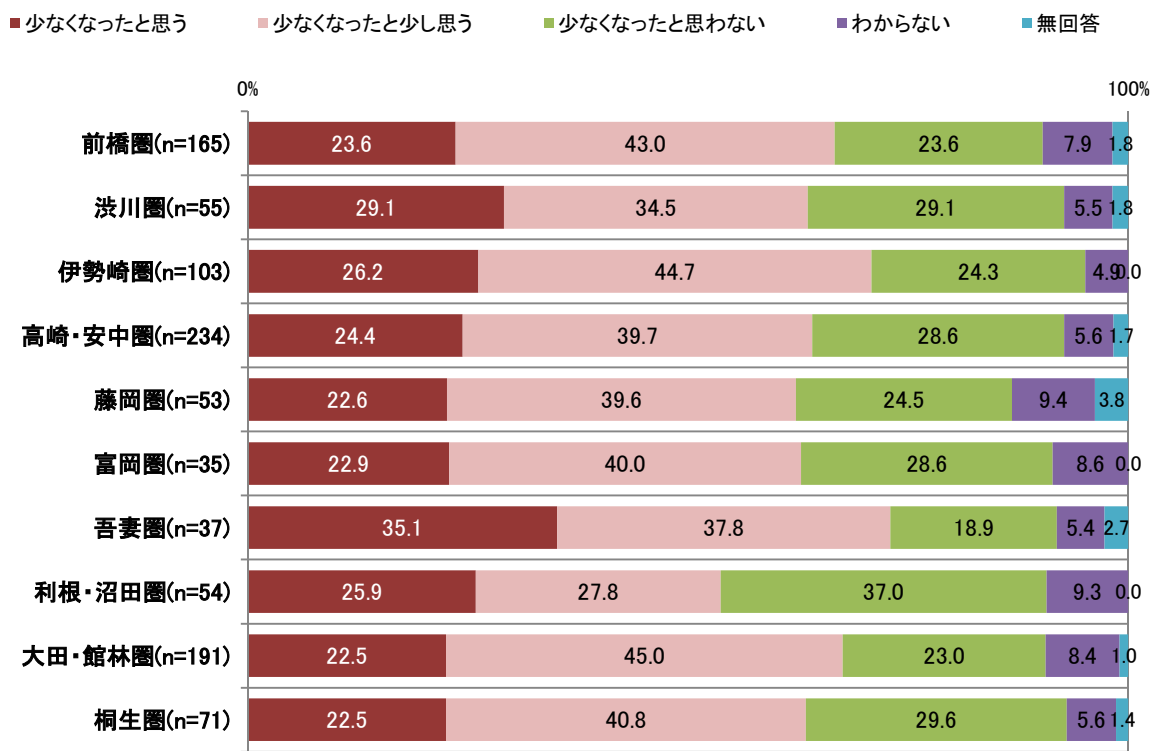
<グラフ141 5、6年前と比べて、身近な自然環境の変化>

#### (2) 年代別傾向



<グラフ142 5、6年前と比べて、身近な自然環境の変化 年代別>

### (3) 圏域別傾向



<グラフ143 5、6年前と比べて、身近な自然環境の変化 圏域別>

#### 身近な環境は「少なくなった」

身近な環境については、「少なくなった (65.6%)」と感じている割合が1番高かった。

年代別傾向をみると、各年代の4割以上が「少なくなった」と感じているが、20代においては「少なくなった」の割合が他の年代と比べて特に低かった。

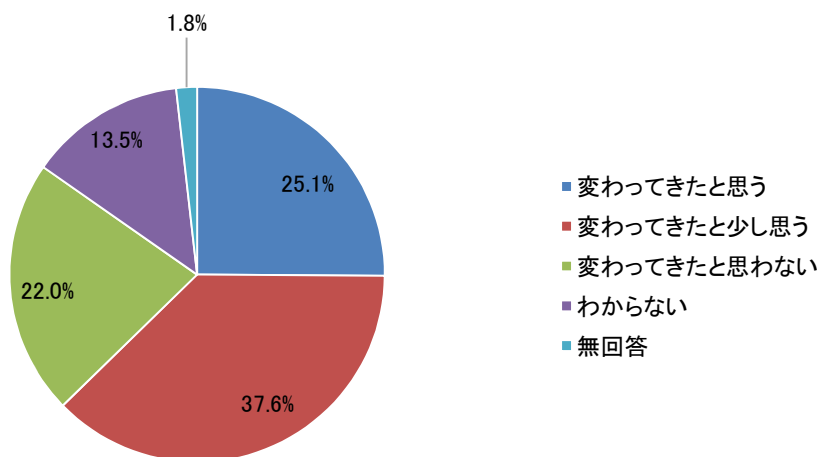
圏域別傾向をみると、「少なくなった」の割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏 (72.9%)」、2番目が「伊勢崎圏 (70.9%)」、3番目が「大田・館林圏 (67.5%)」であることがわかった。

※ 上記文章中の「少なくなった」は、「少なくなったと思う」と「少なくなったと少し思う」の割合を合算して算出。

### 3.7.2 身のまわりの植物や動物の5、6年前との変化

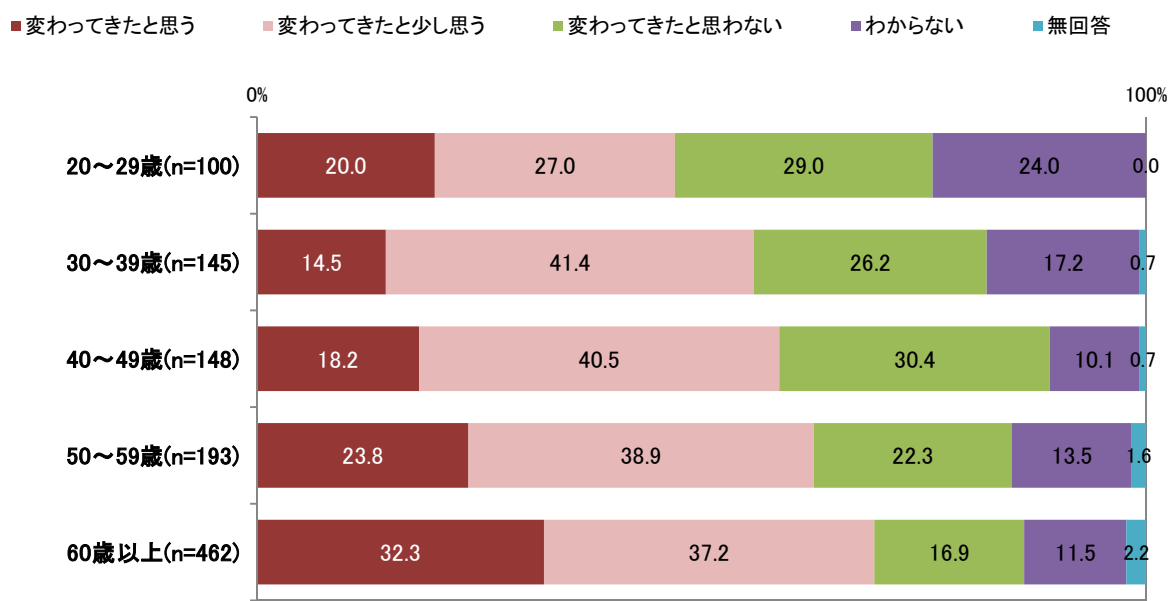
(2) あなたは、5、6年前と比べて、身近な野生の植物や動物の種類が変わってきたと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

#### (1) 今年度の傾向



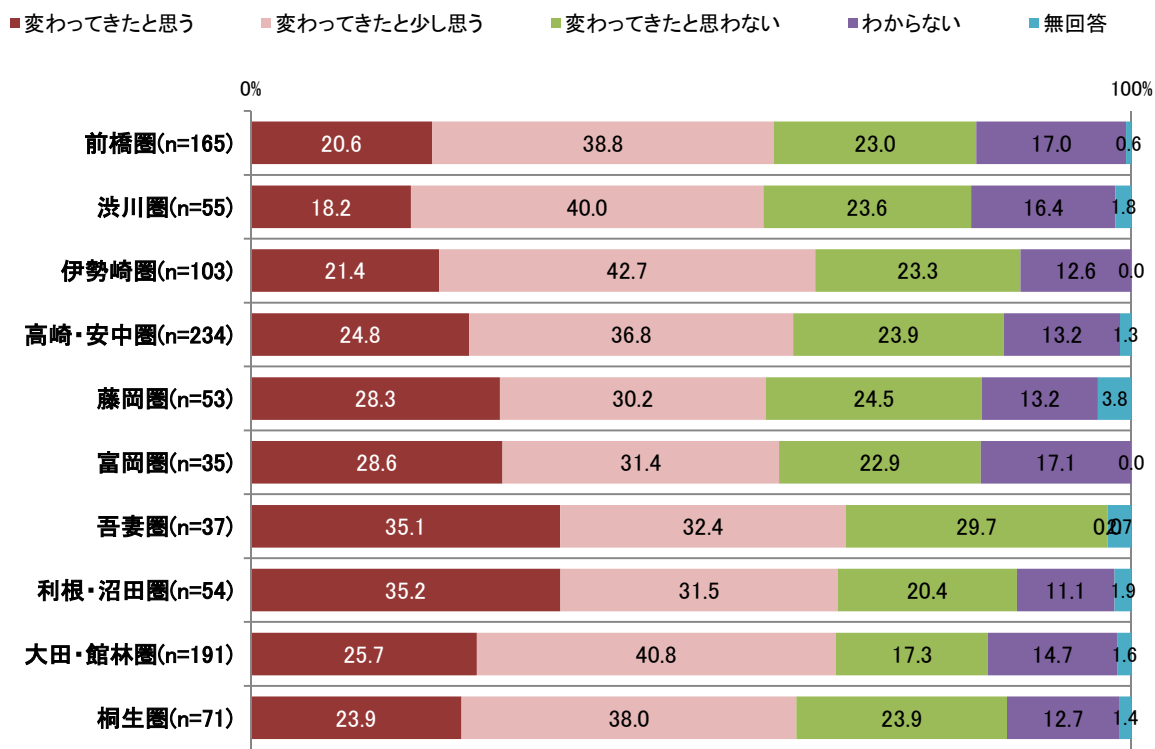
<グラフ144 5、6年前と比べて、身近な植物や動物の変化>

#### (2) 年代別傾向



<グラフ145 5、6年前と比べて、身近な植物や動物の変化 年代別>

### (3) 圏域別傾向



＜グラフ146 5、6年前と比べて、身近な植物や動物の変化 圏域別＞

#### 身近な植物や動物の種類は「変わってきた」

身近な植物や動物の種類については、「変わってきた（62.7%）」と感じている割合が1番高かった。

年代別傾向をみると、各年代の4割以上が「変わってきた」と感じているが、20代においては「変わってきた」の割合が他の年代と比べて特に低かった。

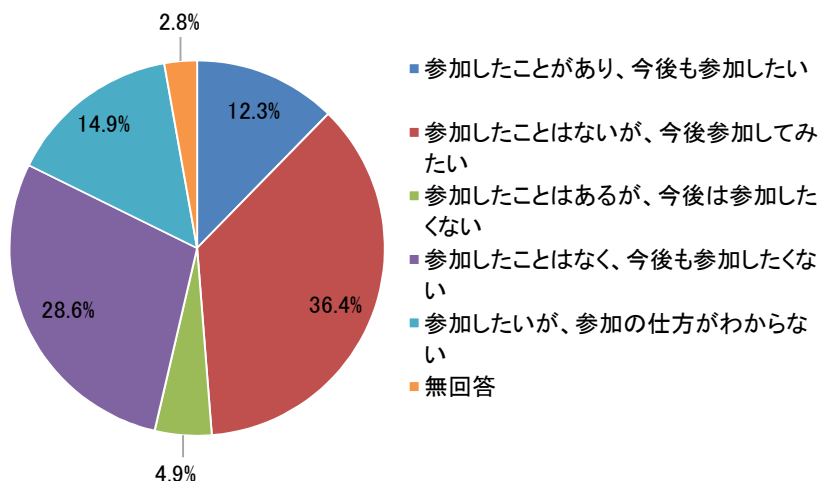
圏域別傾向をみると、「変わってきた」の割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏（67.5%）」、2番目が「利根・沼田圏（66.7%）」、3番目が「大田・館林圏（66.5%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「変わってきた」は、「変わってきたと思う」と「変わってきたと少し思う」の割合を合算して算出。

### 3.7.3 「自然環境」を保全する活動への参加

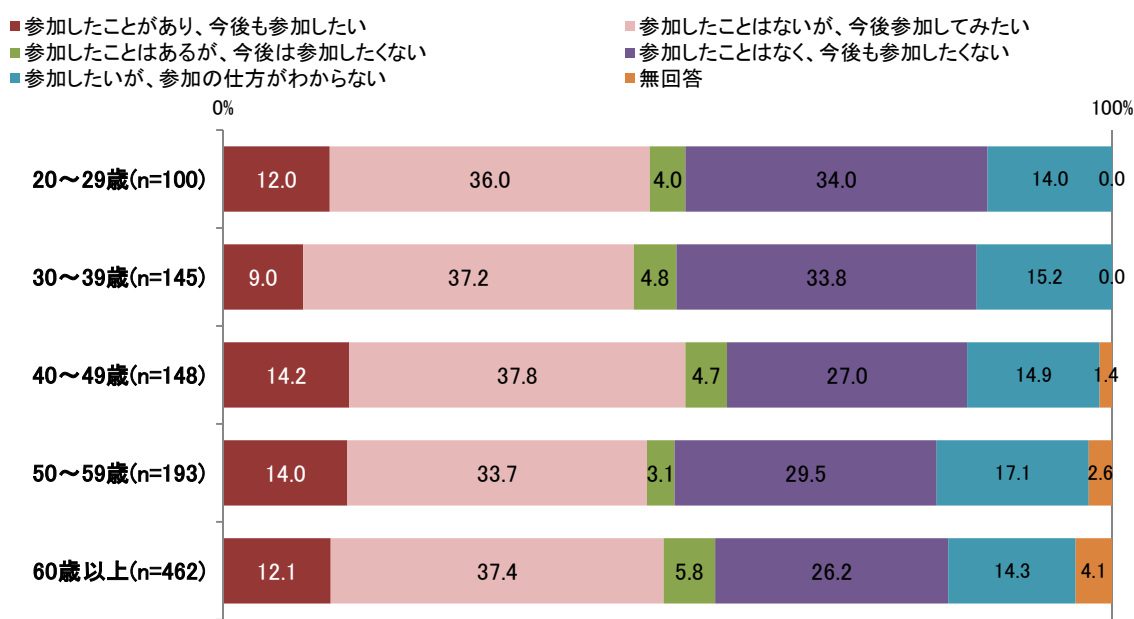
(3) あなたは、「自然環境」を保全する活動に参加したことはありますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

#### (1) 今年度の傾向



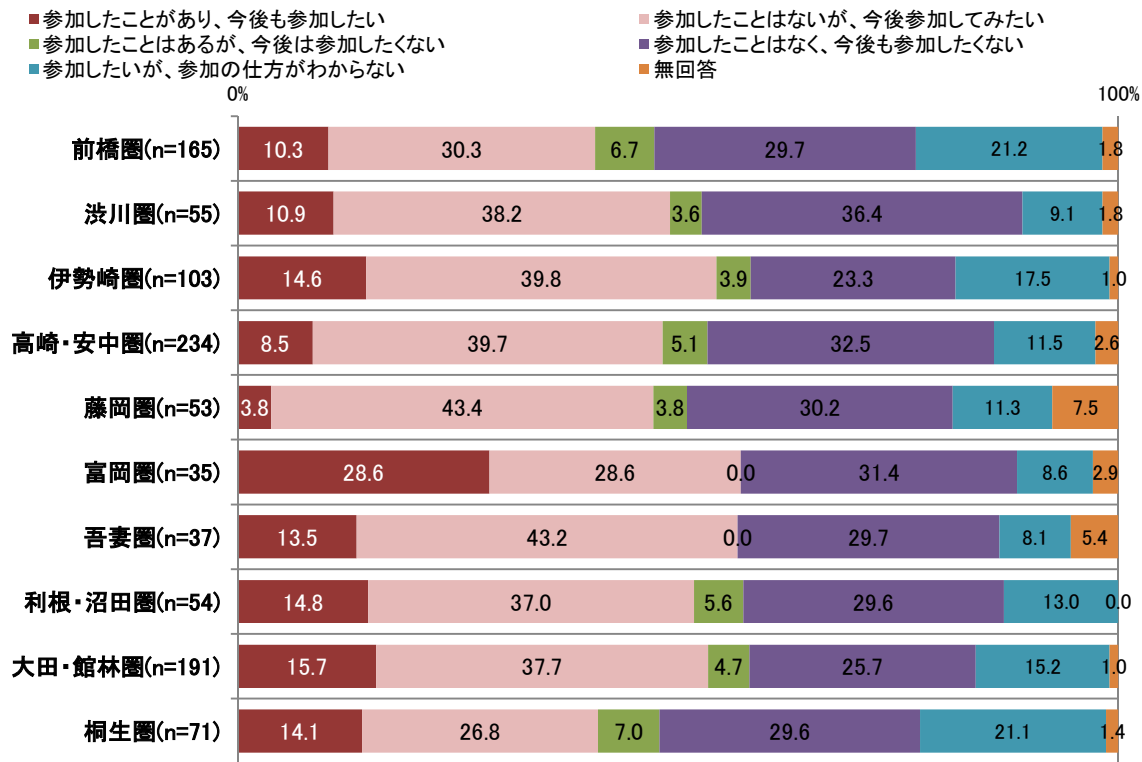
<グラフ147 「自然環境」を保全する活動に参加したことはありますか>

#### (2) 年代別傾向



<グラフ148 「自然環境」を保全する活動に参加したことはありますか 年代別>

### (3) 圏域別傾向



＜グラフ149 「自然環境」を保全する活動に参加したことはありますか 圏域別＞

#### 自然環境に保全する活動に「参加してみたい」

自然環境に保全する活動については、約5割の人が「参加してみたい（48.7%）」と感じている。

但し、「参加したいが、参加の仕方がわからない（14.9%）」を含めると、6割以上に達する。

年代別傾向をみると、各年代の4割以上が「参加してみたい」と感じている。

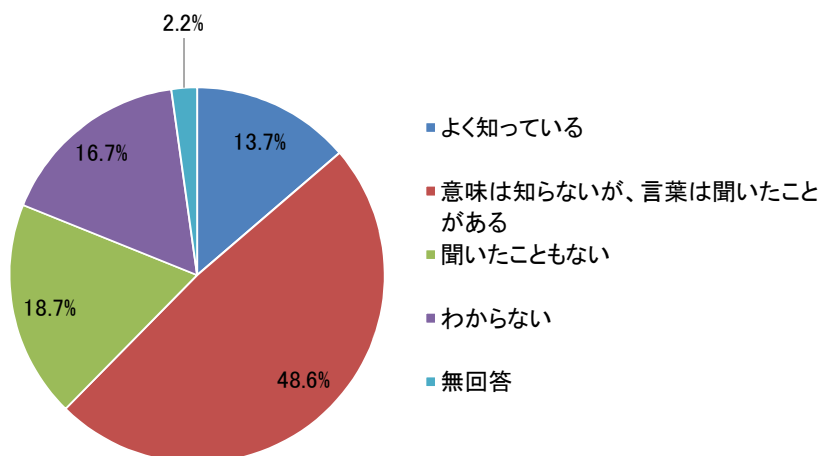
圏域別傾向をみると、「参加してみたい」の割合が高かったのは、1番目が「富岡圏（57.2%）」、2番目が「吾妻圏（56.7%）」、3番目が「伊勢崎圏（54.4%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「参加してみたい」は、「参加したことがあり、今後も参加したい」と「参加したことはないが、今後参加してみたい」の割合を合算して算出。

### 3.7.4 「生物多様性」の認知度

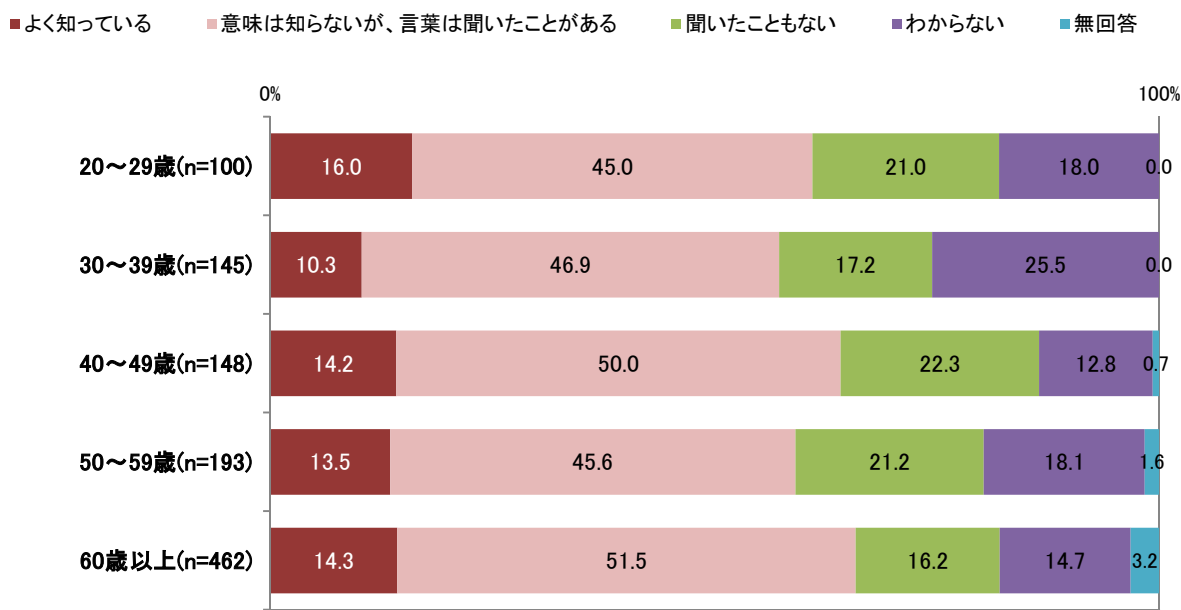
(4) あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

#### (1) 今年度の傾向



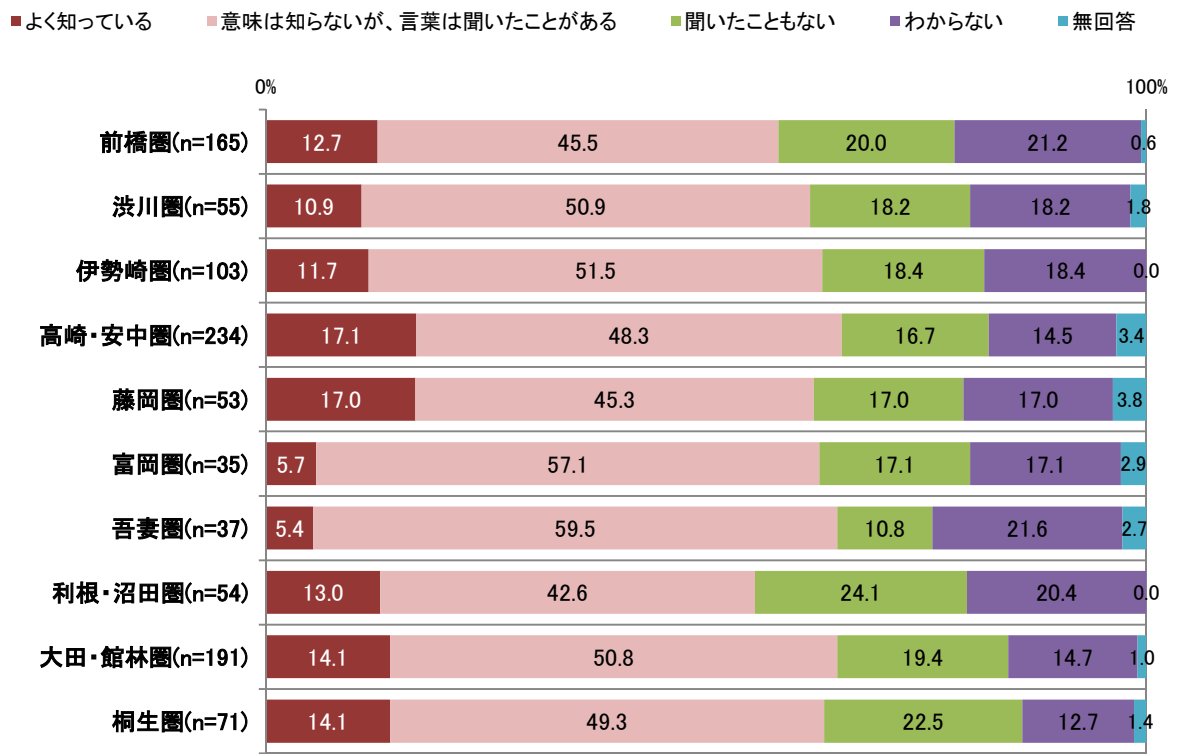
<グラフ150 「生物多様性」という言葉を知っていますか>

#### (2) 年代別傾向



<グラフ151 「生物多様性」という言葉を知っていますか 年代別>

### (3) 圏域別傾向



<グラフ152 「生物多様性」という言葉を知っていますか 圏域別>

#### 「よく知っている」は2割未満

生物多様性の認知度については、「よく知っている (13.7%)」は、2割未満に留まった。但し、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある (48.6%)」を含めると、6割以上に達する。

年代別傾向をみると、各年代の4割以上が「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答している。

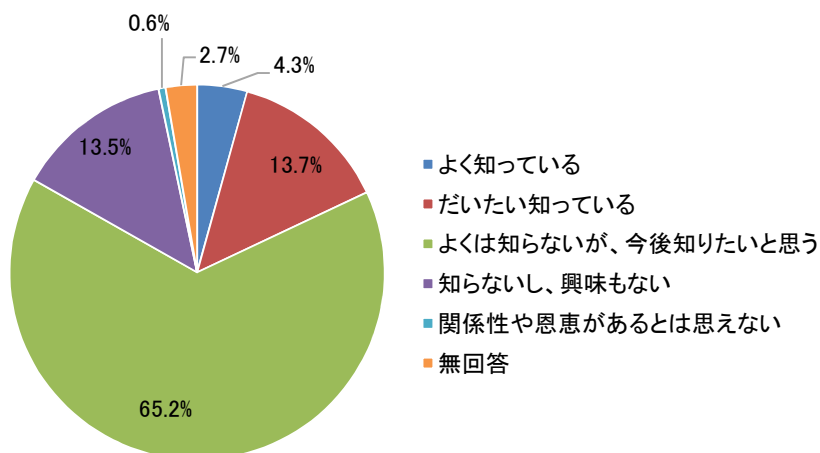
圏域別傾向をみると、「よく知っている」と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」を合算した割合が高かったのは、1番目が「高崎・安中圏 (65.4%)」、2番目が「吾妻圏 (64.9%)」、「大田・館林圏 (64.9%)」であることがわかった。



### 3. 7. 5 「生物多様性」の危機と人間活動との関係の認知度

(5) あなたは、「生物多様性」による人類への恩恵（生態系サービス）や、生物多様性の危機と人間社会との関係性について、知っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

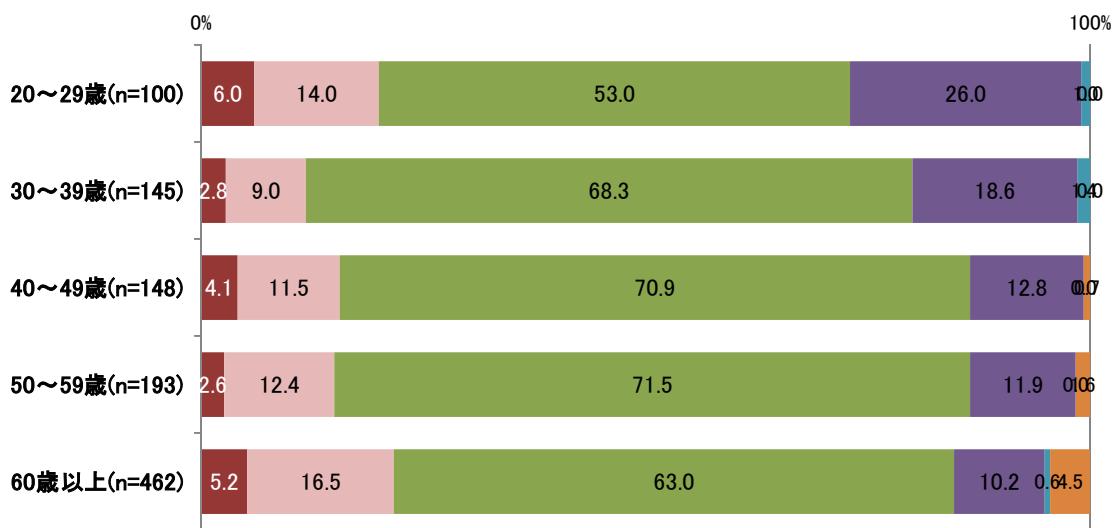
#### (1) 今年度の傾向



<グラフ153 生物多様性の危機と人間社会との関係性>

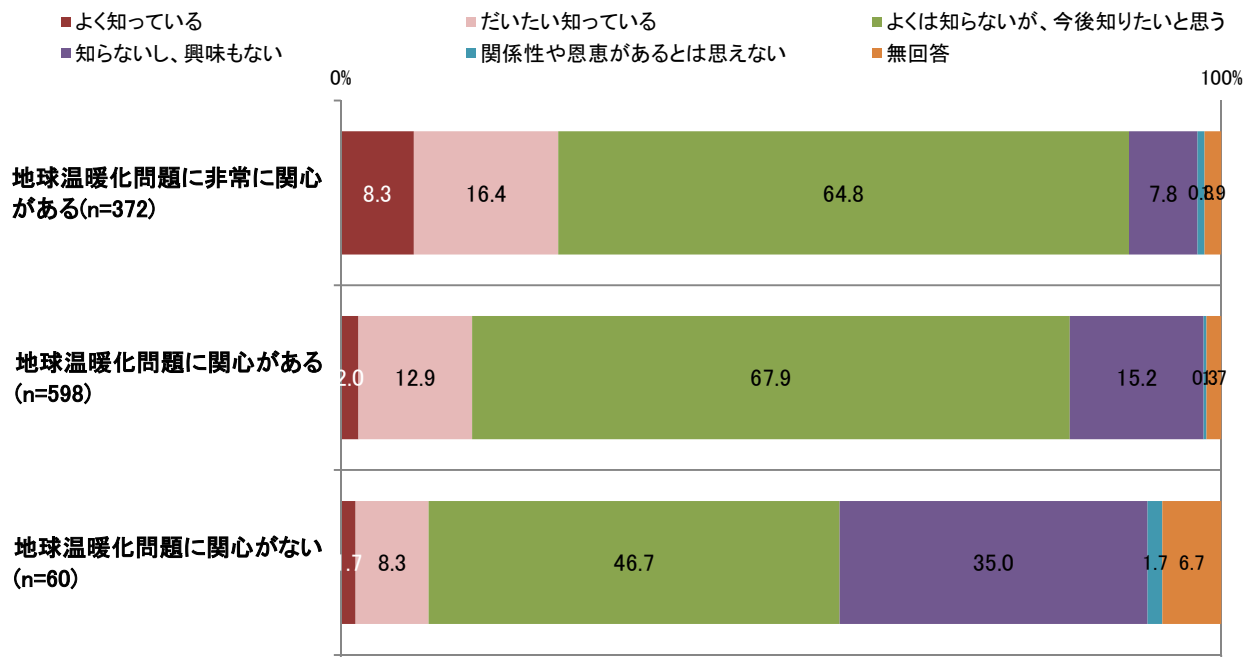
#### (2) 年代別傾向

■ よく知っている     
 ■ だいたい知っている     
 ■ よくは知らないが、今後知りたいと思う  
■ 知らないし、興味もない     
 ■ 関係性や恩恵があるとは思えない     
 ■ 無回答



<グラフ154 生物多様性の危機と人間社会との関係性 年代別>

### (3) 地球温暖化問題への関心と生物多様性の危機への関心



<グラフ155 地球温暖化問題への関心と生物多様性の危機への関心>

「地球温暖化問題」に関心がある = 「生物多様性の保全」に関心がある

生物多様性の危機と人間社会との関係性については、約2割弱の人が「知っている (18.0%)」と回答している。

但し、「よくは知らないが、今後知りたいと思う (65.2%)」を含めると、8割以上に達する。

年代別傾向をみると、「30代 (11.8%)」が特に認知度が低い。

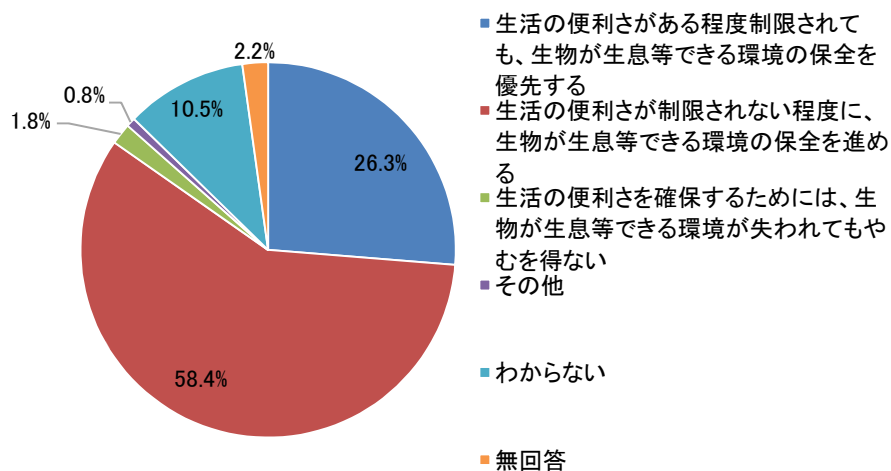
地球温暖化問題に関心がある人ほど、「生物多様性の保全」に関心があり、地球温暖化問題に非常に関心がある人の約9割が、「知っている (24.7%)」、もしくは「よくは知らないが、今後知りたいと思う (64.8%)」と回答している。

※ 上記文章中の「知っている」は、「よく知っている」と「だいたい知っている」の割合を合算して算出。

### 3.7.6 「生物多様性」の保持のための取組の支持

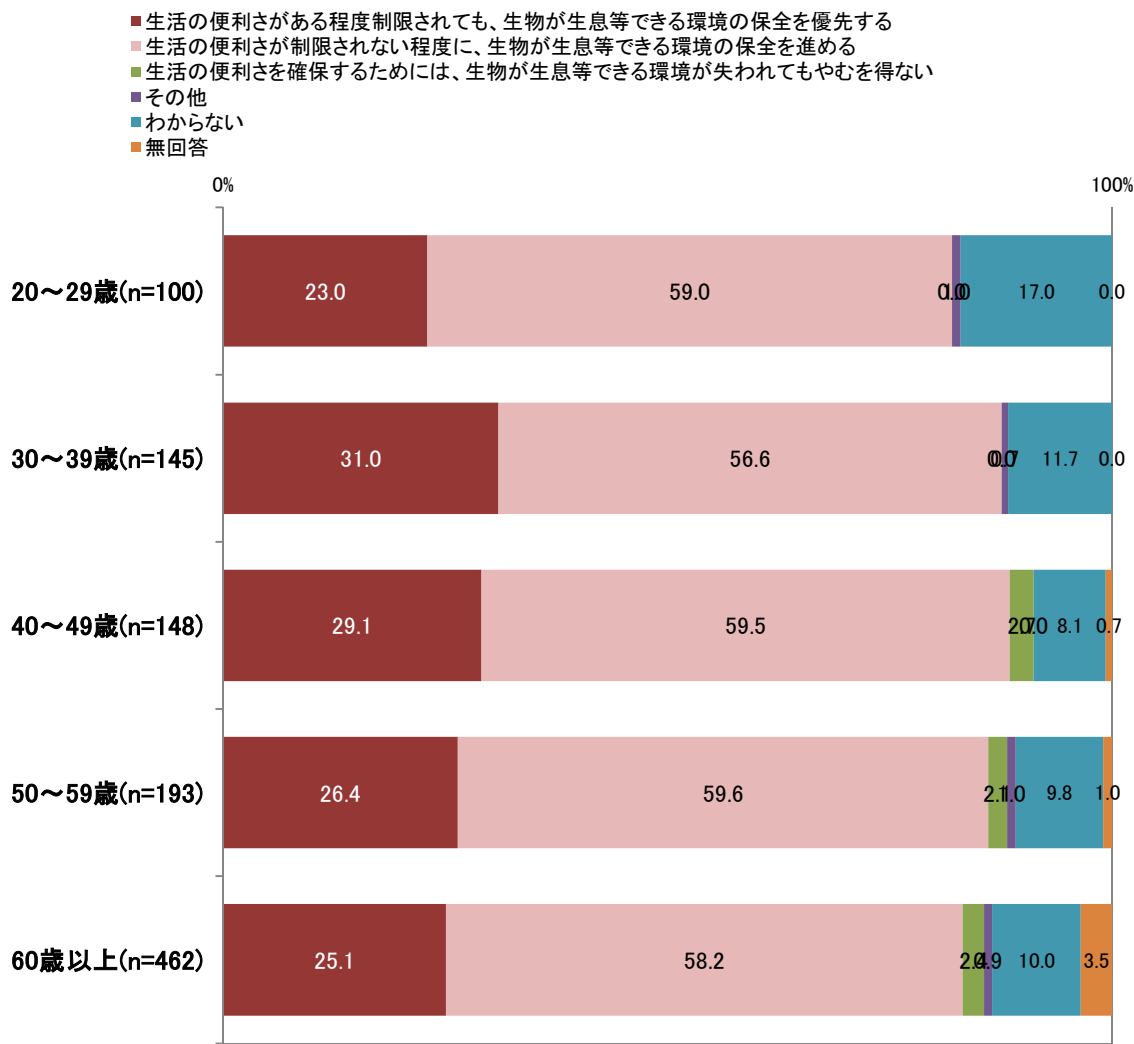
(6) あなたは、「生物多様性」の保全のために、どの取組を支持しますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

#### (1) 今年度の傾向



<グラフ156 「生物多様性」の保全のために、どの取組を支持しますか>

## (2)年代別傾向



＜グラフ157 「生物多様性」の保全のために、どの取組を支持しますか 年代別＞

「生活の便利さが制限されない程度に、生物が生息等できる環境の保全を進める」が約6割  
 生物多様性の保全のための取組については、約6割の人が「生活の便利さが制限されない程度に、生物が生息等できる環境の保全を進める（58.4%）」と感じている。

一方、「生活の便利さを確保するためには、生物が生息等できる環境が失われてもやむを得ない（1.8%）」と回答した人もいた。

年代別傾向をみると、各年代の8割以上が「保全が必要」と感じている。

※ 上記文章中の「保全が必要」は、「生活の便利さがある程度制限されても、生物が生息等できる環境の保全を優先する」と「生活の便利さが制限されない程度に、生物が生息等できる環境の保全を進める」を合算して算出。